

和歌山県西牟婁郡すさみ町所在

熊野参詣道大辺路 馬転坂の調査

2021

和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課 編

例 言

- 1 本書は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課が実施した西牟婁郡すさみ町口和深に所在する熊野参詣道大辺路馬転坂の調査報告書である。
- 2 調査は令和2年（2020）5～6月に実施した。
- 3 本書の編集は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課職員（仲原知之）がおこなった。
- 4 報告書刊行にあたり、下記の方々と機関から御指導・御協力を賜った。
上野一夫（大辺路刈り開き隊）、辻林 浩（世界遺産センター）、
すさみ町教育委員会、Pacific Solar 合同会社、
オルティス・エナジー・ジャパン株式会社

凡 例

- 1 本報告の平面図中の北方位は磁北（M. N.）を示す。
- 2 標高は東京湾平均海面（T. P.）の数値であり、単位はmを使用している。
- 3 遺構写真の縮尺については任意である。
- 4 各図版の転載等の出典は巻末に記した。

調査体制

調査主体：和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課 主幹 寺本就一、主査 仲原知之
調査協力：和歌山県世界遺産センター 副主査 仲 克幸
田辺市教育委員会文化振興課 参事 中川 貴
白浜町教育委員会 学芸員 佐藤純一
すさみ町教育委員会

目 次

第 1 章 経緯と経過	1
第 1 節 調査に至る経緯・経過	1
第 2 節 調査の経過	2
第 2 章 位置と環境	2
第 1 節 地理的環境	2
第 2 節 歴史的環境	3
第 3 節 すさみ町内における熊野参詣道	5
第 4 節 馬転坂の概要	5
第 3 章 調査の方法	9
第 4 章 調査の成果	10
第 5 章 総括	10
図版出典／引用・参考文献	12
図 1～12	13
図版 1 馬転坂 全体平面画像	25
図版 2 馬転坂 全体立面画像	26
図版 3 馬転坂 石積平面・立面画像 1	27
図版 4 馬転坂 石積平面・立面画像 2	28
図版 5 馬転坂 石積平面・立面画像 3	29
図版 6 馬転坂 石積平面・立面画像 4	30
図版 7 馬転坂 石積平面・立面画像 5	31
写真図版 1～29	32

第1章 経緯と経過

第1節 調査に至る経緯・経過

熊野参詣道の大辺路は、田辺市から紀伊半島の西海岸線を通り那智勝浦町に至るルートである。そのうち今回の太陽光発電施設建設に係る事業予定地にある馬転坂は江戸時代の紀行文などにも記されている古道である。当太陽光発電施設建設事業は、馬転坂の中央部において、平成5年にレジャー施設開発用地として造成工事された範囲を中心に計画されたものである（図11）。過去の造成工事により馬転坂の中央付近は既に古道が消滅していたが、今回の事業計画において、中央部より南東へ続く古道の一部が計画範囲に入っていることが判明した。そこで、県教育委員会並びにすさみ町教育委員会などの関係機関は発注業者・工事請負業者との間で数回にわたる古道の保存協議をおこなってきた。しかしながら、当該地は史跡及び埋蔵文化財包蔵地とはなっておらず、また、森林法による林地開発許可（平成5年・平成26年許可済）や和歌山県景観条例による届出（平成26年適合通知済）などの法令手続きは進められている状況であった。さらに、発電開始時期や発電規模の申請状況などから工事計画の変更は困難で、古道の一部が工事により造成されることは避けられないこととなった。そのため、工事前に記録作成の調査のため現地に入ることを依頼し、工事開始時期にもかかわらず調査の了承を得て、令和2年5月16日～19日、5月30日～6月1日の期間で、現地の清掃及び写真撮影などの調査を実施した。また、調査に係る報告書の作成についても事業者から了承を得た。協議等の経過は以下のとおりである。

【協議経過】

- ・令和2年3月11日 関係者協議（場所：東牟婁振興局申本建設部）
 - 参加：県申本建設部・県観光振興課・県教育庁文化遺産課、
すさみ町教育委員会社会教育課・町建設課、工事請負業者
 - 内容：各種申請関係と工事内容の確認
 - 県景観条例（特定景観形成地域）
 - 届出・適合通知済（平成26年）、追加資料要請
 - 森林法・林地開発
 - 許可済（平成5年レジャー施設、平成26年太陽光発電施設）、
変更申請
 - 太陽光発電施設設置条例→条例施行前の事業化のため適用外
 - 通行（迂回路）の確認（事業地を通行できなくなるため事業者が迂回路を設置）
 - 古道と工事範囲の確認（古道が工事範囲内かどうか測量に入り次第確認）
- ・令和2年4月30日 関係者現地協議（場所：現地（馬転坂））
 - 参加：県教育庁文化遺産課、すさみ町教育委員会社会教育課・町建設課
・町産業振興課、地元語り部団体、発注業者、工事請負業者
 - 内容：迂回路ルートの確認
 - （開発事業の作業道や尾根上の地道を利用、その間は事業者がつなぐ）
 - 施工範囲の確認
 - （掘割などの古道が施工範囲内に入ることがわかったため保存要望）

- ・令和2年5月13日 関係者協議（場所：すさみ町役場）
 - 参加：県教育庁文化遺産課、すさみ町教育委員会社会教育課・町建設課、発注業者
 - 内容：馬転坂の重要性を説明
 - （世界遺産既登録地と同等の良好な古道、歴史の道百選追加選定地）
 - 古道の価値は認識できたが、工事の進捗状況から工期的に調整は困難
 - 工事内容の変更は難しく、掘割等の地点は切土なので残すことは困難
 - 工事の進捗に影響がなければ調査可能（調査期間を検討）
 - 町としては迂回路設置が必要
- ・令和2年5月28日 現地協議（場所：現場事務所および現地）
 - 参加：県教育庁文化遺産課、現場担当者
 - 内容：工事の施工状況確認
 - （伐採作業中、暗渠排水路工事が一部古道に及ぶことを確認）
 - 石積み部分について調査できるように要望
- ・令和2年5月29日（場所：和歌山県立博物館会議室）
 - 参加：県教育庁文化遺産課、すさみ町教育委員会社会教育課、発注業者、
工事請負業者
 - 内容：調査期間の確認
 - （工事進展中のため、調査期間は5月30日・31日・6月1日の3日間のみ）

第2節 調査の経過

調査期間、内容は以下のとおりである。

- ・令和2年5月16日～19日
 - 工事開始前に現況確認と現況写真撮影。
 - （20日から工事関係の現地測量のための伐採開始予定で、以降、順次工事施工。）
- ・令和2年5月30日・31日・6月1日
 - 現地調査（清掃、写真撮影、一部測量）。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

紀伊半島南部に位置するすさみ町は和歌山県西牟婁郡に属し、北は白浜町、東は古座川町、南東は串本町に接している。南西側は太平洋（枯木灘）に面しており、平地に乏しく、山地が海岸線まで迫っている。紀伊半島はプレートの沈み込みによって独特の地形が生み出され、「南紀熊野ジオパーク」が日本ジオパークとして認定されている。すさみ町域ではフェニックス褶曲、黒島、戎島、江須崎がジオサイトとなっている。海岸には激しい波浪を受けた海食崖が発達したリアス式海岸となっており、海岸線沿いは「吉野熊野国立公園」に指定されている。周参見川、和深川、長井川、江住川などの河川がそれぞれ周参見、口和深、見老津、江住に流れこみ、それらの入り江を拠点として漁港が発達し、漁業が盛んな地域となっている。特に伝統的なケンケン漁法で釣り上げるカツオはすさみ町の特産物として知名度が上がってきている。また、町域の90%が林野で占められており、山間部を中心に林業も主要産業となっている。

第2節 歴史的環境

すさみ町は平地部が少なく、弥生時代以前の遺跡はほとんど確認されていなかった。平成22年度に実施された周参見川下流域の立野遺跡における発掘調査で、弥生時代前期の自然流路から多数の遺物が出土し、当該期からこの地域で集落が形成され、水田耕作がはじまっていたことが判明した（図10）。縄文時代系の突帯文土器・石器とともに弥生時代系の農具・工具・弓・容器などの木製品や未成品が多量に出土したことから、農耕開始期の近畿地方南部の歴史を考えるうえで重要な資料となっている。

古墳時代には、周参見湾を見下ろす標高81mの丘陵上に上ミ山古墳が築造された。6世紀前半の直径40m・高さ4mの円墳で、内部主体として箱式石棺1基・横穴式石室2基が確認されている。昭和45年の発掘調査で、未盗掘の玄室から須恵器、鉄製品、管玉などの遺物が出土している。周参見湾沿岸に位置する小泊遺跡では、製塩土器が出土しており、当該地で塩の生産がおこなれていたと推定されている。

古代にはすさみ町域は牟婁郡三前郷に属していたとみられる。隣接する白浜町域では、天皇が行幸する牟婁の湯などが歴史書にも記されているが、すさみ町域では確実な遺跡は確認されていない。

南北朝時代～戦国時代にかけて、紀伊国では南朝の拠点や熊野三山の隆盛など歴史的に重要な地域となり、山城が多数築造されるようになる。すさみ町域では、周参見城や中山城、立野城、神田城、駒詰城などが確認できる。これらは大辺路や古座街道のルート上にあることから、交通の要所に設けられたものと考えられる。大辺路の確実な記述は江戸時代初頭の『醒睡笑』（安楽庵策伝）といわれているが、中世段階で大辺路ルートが開かれていた可能性がある。

江戸時代に入り、紀伊藩によって藩内の街道が整備され、一里塚や伝馬所が設置された。大辺路では、初期には古座に、後に周参見に口熊野代官所が設置された。周参見や和深川には伝馬所が設置されていたといわれている。熊野参詣は、古代以降、主に中辺路や伊勢路を利用していたが、近世になると大辺路を通行する者がいたことが紀行文などで確認できる。藩主として大辺路を通行した記録として、7代目藩主徳川宗直で、享和7年（1722）に紀州領分巡見のため大辺路を経由したことが知られている。

明治22年の町村制施行により、周参見村・大都河村・佐本村・江住村が誕生し、大正13年に周参見村が町となり、昭和30年にそれらが合併してすさみ町となった。

熊野参詣道大辺路の既往調査例はこれまでほとんどないが、近年、大辺路周辺で県教育委員会文化遺産課が試掘調査・立会調査を実施している（図12）。

①すさみ串本道路建設事業に伴う試掘調査（串本町田子地区）

平成30年3月1日～8日に試掘調査を実施し、調査面積は22㎡である。国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所によりすさみ串本道路建設事業が計画され、一部の工事用道路が大辺路付近に建設されることとなった。平成29年度に熊野参詣道大辺路の分布調査を実施した結果、古道ルートの可能性がある事業予定地内の串本町田子地内（中平見）において、試掘調査を実施した。3箇所調査区を設けて調査した結果、1箇所石畳道を検出したものの、近現代の農道と考えられ、いずれの調査区においても大辺路のルートではないと判断された。

②すさみ串本道路建設事業に伴う試掘調査（すさみ町里野地区）

分布調査によって古道ルートが想定されたすさみ町里野地内（休ん場～宇の平見）において、平成31年3月5～7・13日に試掘調査を実施した。事業予定地内において谷部を通る古道想定ルートの右岸側と左岸側に1箇所ずつ調査区を設定した（第1トレンチ2.72㎡、第2トレンチ3.92㎡（計6.64㎡））。第1トレンチは西から谷を渡って東へ向かう際に通行できる地点に設けた調査区で、全体的に斜面地である。第2トレンチは谷の東側に設けた調査区で、山側は岩盤が露出し、谷部までの間が平坦地となっている。両調査区ともに地山面まで掘削した結果、通行時に踏み固められたと推測できる固く締まった面を確認したが、石畳や敷石などは確認できなかった。遺物も出土していない。第2トレンチでは地山面で大きな礫を多く検出した。礫は平坦面を上面に向けているが、これは歩きやすいように地山の礫を置き直すことを繰り返した結果と推察される。ただし、富山平見道や新田平見道（串本町）などの石畳に比べて礫が大振りで、大きさも不揃いであることから、大辺路で確認されている石畳とは異なる。いずれの礫も苔むしたり摩耗したりしていないので、長期間露出していなかったと考えられる。これらの状況から整備された街道ではなく、地元住民が集落から谷や田畑への歩行に使用した道であった可能性が高いと判断した。調査の結果、事業地予定地内では古道に関わる石畳などの痕跡は確認できず、本来の大辺路ルートは、事業予定地より南側の現国道や旧県道付近を通っていたと推定される。

③すさみ串本道路建設事業に伴う立会調査（串本町田子地区）

串本町田子地区の大辺路ルートとされる古道（中平見道）について、町道を工事用道路として拡幅することで一部損壊される可能性があったため平成30年7月2・12・18日に工事立会を実施した。中平見道は、世界遺産登録地でもある富山平見道の西側にある中平見と呼ばれる台地にあたる。台地西斜面では上面がモルタル舗装であるが、舗装下に石畳・石階段が確認される。東斜面中腹には古道を分断するように集落へ向かう町道（アスファルト舗装）が敷設されている。町道より下側では、JRのトンネル上を通り谷へと下る幅約1mのモルタル舗装道が続き、舗装下には石畳及び石階段が残る。地元でもこの道が大辺路とされるが、トンネル上を通行して危険なため現在は歩行していない。町道より上側は幅約1.5mの掘割状の古道が残存し、路面は階段状のモルタル舗装で、石階段などは確認できない。町道との取り付け箇所は、町道建設時に新たにコンクリート階段を敷設している。今回の工事用道路拡幅は、既に古道が残っていないコンクリート階段を中心とした箇所であるが、立会調査を実施した。調査面積は4㎡（幅1.5×長4.0m）。モルタル下は岩盤で、現代の陶磁器片を確認した。岩盤上には礫が多く認められたが、石畳や石階段ではなく、モルタル敷設時に岩盤の窪みに礫を入れ込んだと推察できる。調査の結果、両壁面から路面にかけて岩盤を確認し、岩盤を削り出して古道を造成したと推定できる。岩盤は階段状に整形しているが、その時期は明らかにできなかった。岩盤の階段状の整形は中辺路の大日越などで一部確認できるが、串本町内の他の大辺路では確認されておらず、また石階段が認められないことや窪みにモルタル敷設時の礫が認められることから、近世以前の整形ではないと判断した。路面北端に岩盤を削り出した幅約0.15mの側溝を確認したが、台地上の現代家屋の側溝につながっていることから、側溝開削時期は近世には遡らないと思われる。以上から、掘割状の岩盤の両壁面は近世以前の造成である可能性があるものの、路面である岩盤面は近現代以降に改変されている可能性が高いと判断した。

第3節 すさみ町内における熊野参詣道

田辺市内で熊野参詣道は中辺路と大辺路に分岐する。大辺路は、田辺市街地から上富田町を経て、紀伊半島西岸を進み、白浜町、すさみ町、串本町、那智勝浦町へと続き、那智勝浦町の浜ノ宮王子跡で中辺路と合流する。国道42号と重複して舗装された区間も多いが、土道が良好に残存している箇所もあり、富田坂、仏坂（白浜町）、タオの峠、長井坂（すさみ町）、新田平見道、富山平見道、飛渡谷道、（串本町）、清水峠（串本町・那智勝浦町）、二河峠、駿田峠（那智勝浦町）は、史跡熊野参詣道に指定され、世界遺産登録地でもある。この他、短い区間ではあるが、まだ土道が残されている未指定箇所がある。すさみ町内では、安宅坂、仏坂、馬転坂、和深川集落の古道、丸山の掘割、スリの浜、上平見道、中の平見道、大平見道、六坊浜古道などで未指定ながら土道が残存している。これらは令和元年度に歴史の道百選「熊野参詣道」に追加選定されている。

大辺路には中辺路のように王子社が多く所在していないが、すさみ町内には周参見王子神社と和深川王子神社が現存する。周参見王子神社は、『紀伊続風土記』に「若一王子権現社 境内森山周二町二十間 本村の中山崎にあり周参見一村の産土神とす 天文十五年文禄三年の棟札あり 天文には周参見領主左衛門大夫藤原氏安と書し 文禄にも同人にて主馬太夫と書す 拝殿あり」とあり、熊野から勧請された神社で、棟札から天文15年(1546)に周参見領主左衛門大夫藤原氏安が建立したことがわかる。和深川王子神社は寛永2年(1625)に松本四郎太夫広正により創建された。『紀伊続風土記』では「春日明神社 境内森山周七十間 撰社 若一王子権現 拝殿 村中にあり 一村の産土神なり」とある。

第4節 馬転坂の概要

馬転坂の土道が残存する箇所は民有地である。平成5年頃のレジャー施設開発で中央部の古道は削平されている。中央部を除くと、東側と西側には幅2mほどの土道が良好に残存する。西側は大串峠、東側は本来の馬転坂といわれることもあるが、現在は両者を合わせて馬転坂と呼称している。西側（大串峠）の頂部には、かつて地蔵があった地蔵の段と呼ばれる石段が残されている。地蔵の段にあった地蔵は、現在国道42号の白島トンネル東側に移設されている。地蔵には天明六年銘(1786年)が刻まれており、馬転坂は少なくとも18世紀後半には現在のルートを通っていたと推察される。西側（大串峠）の途中には周参見と口和深の境界として境目石が残されている。西側・東側とも路肩の石積みや石組排水溝が確認できる。史跡等は未指定で、埋蔵文化財包蔵地外である。令和元年10月29日には歴史の道百選「熊野参詣道」に追加選定された。土道が良好に残存し、世界遺産登録地でもある大辺路の長井坂等の土道に比べても遜色ない。現在、周参見駅—馬転坂—タオの峠（世界遺産）—長井坂（世界遺産）—見老津駅という観光（歩行）ルートが設定されている。馬転坂は大辺路のルートにあたり、江戸時代からその名称が確認できる。馬が転ぶほどの急傾斜の道であることからその名がついたようで、一部、馬倒坂と記されることもあった。明治時代末期に旧県道（旧国道）が南側に開通して以降は通行する者が途絶えて道がわかりづらくなった。旧県道開通の際に本来の道は里道ではなく民有地になったと推測できる。平成に入りレジャー施設開発による造成で中央部の道が消滅してしまった。以下、馬転坂について、江戸時代以降、現代までの記述を年代順に挙げる。なお、読み下し等は主に大辺路再生実行委員会2008『熊野古道 大辺路調査報告書』による。

◎『熊野大辺路街道図（仮題）』江戸時代

「馬ころび 上下九町」

◎『熊野参山独案内之記』貞享2年（1685）

「馬転び坂 上下九町」

◎児玉荘左衛門『紀南郷導記（熊野独参記）』元禄2年（1689）

「口和深村 馬倒坂 上下九町。」

◎玉川玄龍『熊野巡覧記』寛政6年（1794）

「和深川より周参見へ一里十町。馬転坂難所なり。波越の坂と云を過て周参見に至る。鬮の川よりは迄四十八坂有り。」

◎小原桃洞『熊野採薬巡覧記』文化11年（1814）3月

「周参見を出れば小阪あり、阪を下りて浜に出る。小グシ浜と云。又小阪ありて海辺に出づ。大グシと云。是より阪を馬コロビと云。此阪を下りて和深川なり。」

◎長沢伴雄『湯峰温泉の日記』天保11年（1840）正月

「この浦を過て馬ころび坂といふあり、いとけはしき道なり。」

◎熊代繁里『熊野日記』安政6年（1859）3月

「すこしゆきて馬転てふ坂なり。むかしはいとさかしかりしよしなれど、今は道よくつくりなしてゆきよし。」

◎斎藤拙堂『南遊志』万延元年（1860）

「海岸渡る。奇巖多し。倒馬嶺、長井坂を踰ゆ。」

◎堀内 信『老の芋環』（堀内家文書）

*明治2年（1869）年末の記述、『在郡日記』（南徳川史所収）にも同文あり。

「馬転坂 口熊野周参見に同僚在勤す、歳且同行を約して予騎行す、周参見に入りしとする一里計に嶮坂あり、出迎案内の者曰く、此坂馬転びと称し右来馬通せず下馬然るべしと、予唯々敢て意を勞する勿れと轡を按じて進む、絶頂に達すれば忽然大瀛目前に開け森茫無除、左方は万尋の深淵に臨み、右方は断崖天に聳へ、而も道中僅に三、四尺、且前崑屹角剣立し、馬蹄を掛るの地なく、一步を誤らば忽ち不帰の客たるべく意外の嶮難也、然れば吾が愛馬は嶮山峻嶺蹈み盡して馴熟巧す、仍て轡を放て自蹄の蹈むに任せ徐々、無難に下り了る、同僚に面し云々也、爾来馬転の名廢すべしと一笑したりき」

◎周参見尋常高等小学校『周参見村郷土誌』明治43年（1910）

「世に大辺路道路の嶮を称する者、先ず指を屈するは左の数ヶ所を挙ぐ。富田坂・安居坂・馬転坂・和深の四十八坂是なり。我が周参見は、安居坂・馬転坂・長柄坂に亘りて街道相通じ、路程三里に余り大いに旅客を苦しめたりしが、聖代の余徳辺郷に及ぼし、今や大辺路道路の改修工事着々進捗し、数年ならずして車道相通じ嶮坂峻路もやがて昔談となりぬべし。明治四十三年度には、既に起点串本町より有田・田並・和深・江住の各村を経て、見老津堺迄の改修を終え、四十四年度よりは我が地を経て安居坂・富田坂を一貫するの設計なりという。馬転の嶮、名の如くにも無けれども、大字和深川及び口和深と大字周参見との中間を隔てたる上り下り合わせて約一里の難路にして、他日人車・荷車の通ずる暁を想い到らば、今人如何に気を揉むやらん。東翠閣所蔵 中西篁洞馬転の詩あり 路在羊腸窮又通 危巖枕海帶長風 堪驚脚底怒涛走 倒馬之名曾不空」

「周参見村は県道大辺地道路に当り、近郷へ通ずる岐路亦能く開け、海運は往古より盛んなり。只憾むらくは道路何れも修築を怠り荒廢に任せ、歩行頗る困難を感ず。」*馬転坂の記述ではないが、大辺路

の荒廃ぶりが記されている。

「而して当時凡そ串本以南の地に行くには、音に名高き馬転びと長柄坂を初め、その他四十八坂の峻嶮を攀じて串本に行くに非ざれば汽船に便乗するを得ず。猶一方、田辺以西の地に行くには、先ず崎嶇たる仏坂と富田坂の峻嶮を越ゆるに非ざれば、汽船の便に頼る能わず。・・・猶進んで今後二三年の我が周参見を想像すれば、大辺路道路は本年中に長柄の南麓迄来るべく、而して来年度中には稍々当村に達すべし。」＊明治43年の富本輝一氏による演説要旨。

◎森本正男『牟婁風土記』昭和45年(1970)

「和深川田街道の路辺 和深川は口和深の奥、周参見より見老津に通ずる大辺路旧街道のあったところ。ここに春日明神社摂社若一王子権現があり、倒馬嶺(うまころび)長井坂と険難な道を経て見老津に至るもの・・・」

◎和歌山県教育委員会『歴史の道調査報告書(Ⅰ)』昭和54年(1979)

「特に、馬転坂(うまころびざか)・長井坂・和深川入口・江住の新谷においては、石畳や石垣などの遺構も確認でき、古道の状況を明確にとらえる事ができる。」

◎伊勢田進・水本雄三「熊野古道の現状と変遷(4)―大辺路― すさみ町・串本町」『きのくに文化財』第19号((社)和歌山県文化財研究会)昭和61年(1986)

「特に、馬転坂(うまころびざか)、長井坂、和深川入口、江住の新谷においては、石畳や石垣などの遺構も確認でき、古墳の状況を明確にとらえる事ができる。」「萬福寺～馬転坂・・・海浜沿いに白島隧道へとつづき、トンネルの入口三十メートル手前の旧国道を上り、百メートル程の所より馬転坂へ至る。」「馬転坂～西浜 馬転坂は、白島隧道の山の上に当り、樹木が生い茂り歩行困難ではあるが、古道の姿を今に残している。所々ではあるが、古道の片側は石垣が積まれている。幅員は二メートル余りであり、小さな谷間沿いに下ると国道四二号線に出る。・・・」

◎芝村 勉『熊野古道・大辺地』平成2年(1990)

「ここから周参見へは馬転坂を越える。“馬転”と書いて“うまころび”と読む。ざっと二千メートル、いまは雑草の茂るままになっているが、鼻を擦り剥くほどの急坂だ。現在国道は白島隧道が抜かれているので、すこぶる簡単に通ることができる。それ以前は西浜から登りかかって現在の国道と平行しながら標高八十メートル余りの小山を越えて、白島隧道の口近くに下りているルートだった。しかしそれは旧国道である。往昔の馬転坂は、登り口の途中から右に入り旧国道の上部を越している。しばらくは旧国道と平行して急坂を登り、谷筋に達して右折、谷奥を目指す。雑木に覆われた道はやがて茶店でもあったのかと思うような四角の空間に達する。その空地を左斜めに突き切って、谷川を渡ると両側は身の丈以上もある笹の中の登り坂となる。上り切ったところで右に横手道をとって、二つばかり小さなピークを過ぎると、周参見方面を見晴らす峠である。左に山を巻いて進むが、次第に道筋が消えてしまって立往生した。・・・方向は合っているのだからと速二無二進むと、果たして道筋がはっきりしてきて漸く越えることができた。」

◎木下 優『すさみ風土記(Ⅱ)周参見地誌紀行』平成6年(1994)

「うまころび(馬転)坂実地検証 平成5・11・5 この日、前回時発見した大串峠の古道を、鎌刀で雑木の小枝やシダを刈り除き、天明(江戸時代後期)地蔵の台座まで見出し、引き続き、途中、道路造成のために切り崩されて途切れてはいるが、百メートル余降った部位に再び古道を発見し、分け入って約五十メートルを踏査した。」「もし、今この記録を残さなければ、造成道路の完成に伴ない、林木伐採に続く造成工事のために古道が破壊されて、その姿も消え去ったことであろう。」「(写真キャプション)掘り切り古道の遠景/低嶺部を五メートル余も掘り切った古道」、「“うまころび”坂 前期の地蔵台座を

東方へ僅かに（約五〇メートル）歩むと、造成道路のため百五十メートル余は古道の姿は見えない。しかし、間もなく、路下数メートルの所に再び古道が姿をあらわす。美しい一間（約二メートル）巾の道であるが程なく行き止まりのようである。・・・行き止まり地点から海洋に向かって右手下の谷間が、今造成工事のために杉樹を伐採している“うまころび”の谷であり・・・古道再発見地点より十数メートル近く進んだ所、すなわち行き止りと思えた部分が直角に近い曲折ではあるが、高さ五～六メートル・巾約三メートル・距離十数メートルにわたって、低山嶺岩盤を手槌とノミで掘削し、平坦に道造りされて東側の小谷に至りついている。・・・ここより、あと一曲りして海洋が一望できる崖っぷちに出る。鉄道馬越トンネルの西ノ浜側出口近くで、いわゆる、古道中歴史上有名な難所“うまころび（馬転）坂”なのである。」

◎和歌山県西牟婁振興局『熊野古道 大辺路調査報告書』平成 13 年（2001）

「・・・JRきのくに線を横断し、梅畑の最上段に位置する地点から古道を登ることができる。雑木やシダが生い茂り歩行困難であるが、一間前後（約 2 メートル）の古道が続く。石畳や路肩・排水溝の石組みも確認できる。現在人の通行は途絶えているが、残存状態は良い。石畳の若干残る頂上付近から下り坂となるが、国道 42 号線の白島隧道上の丘陵地帯は、バブル期の土地造成により、頂上からの古道はかなりの部分が消滅している。周辺の景観も復元できない状況である。残存している東南部の丘陵に「掘り割り」が確認できる。この掘り割りを通り、谷間を西ノ浜に下って行くと、戦後田辺文里港に引き揚げて来た沖縄県人たちの開拓地に出る。屋敷や田畑の跡が確認できる。開拓地からは岩石の露出する急な坂となる。馬転坂と呼ばれた状況を多少今に伝えるのは、この下り坂のみである。坂を下ると旧県道に出る。その下を国道 42 号線が走っている。・・・この旧県道の下り 2～300 メートルの部分が、本当の意味での「馬転坂」と称された岩場の急峻な坂道であったというが、旧県道・国道の造成により、今日その旧状は想像できない。・・・」

◎紀伊民報「馬転坂コース復元」平成 15 年（2003）12 月 25 日

「熊野古道大辺路ルートのすさみ町周参見大串一口和深西浜間の「馬転坂コース」（約 2 キロ）を復元しようと、同町和深川、町文化財保護委員の新谷洋一さん（63）が古道に沿って草木を刈り取り、歩けるように整えた。・・・同コースは整備されていないことから、ハイカーは国道か旧県道を歩いている。・・・今月初めから一人で作業を始めた。カマとノコギリだけを使った手作業で、古道の跡を確認しながら、生い茂った雑木やシダなどの草木を 3 日間かけて刈り取った。」

◎宇江敏勝『世界遺産—熊野古道』平成 16 年（2004）

「まもなく生コン工場があって、そこから登る道が最近地元の人の手で刈り払われた。この上を大串峠という。大串峠から和深川をへて長井坂までの道を、私は平成十年、すさみ町文化財審議委員の木下優先生に案内していただいた。古道は大正四年頃から廃道になったという。だが、先生は調査をして、二十年間に一七度も歩いたそう。人の姿もなく淋しいところだった、と最近になって脚光を浴びつつあることを喜んでおられた。大串峠からの下りを馬転坂という。・・・海を眼下にした断崖絶壁の危険な道にはちがいないが、ここからの景観がまたすばらしい。西浜の岩礁群や和深崎などに白波が寄せ、眼を転ずればはるか彼方に空と太平洋が合わさっている。」

「鉄道が和歌山から田辺まで開通したのは昭和七年、周参見までは十一年、和歌山・新宮間は十五年、さらに和歌山・亀山間は三十四年にできて、紀伊半島をひとまわりし、その名も紀勢本線として完通した。」

◎木村 甫「熊野古道（仏坂・長井坂）案内記」『いなづみ』第 14 号（すさみ町教育委員会）平成 19 年（2007）

*馬転坂の記載は世界遺産大辺路地域協議会 2009『熊野古道大辺路語り部読本』に所収

「馬転び坂西上り口 明治以後の県道・鉄道・国道のあいつぐ諸工事の為、大辺路街道の平坦部はずたずたに寸断されてしまった。現在古道の形を止めているのは、山上の部分のみである。この馬転び坂も左右の上り口附近は消えてしまっており、中間の坂道だけが残っているのであるが、それさえも最近の宅地造成工事で寸断されてしまった。」「馬転び坂宅地造成 この宅地は平成に入ってから造成されたもので、その為残っていた古道は寸断されてしまった。上部の壇に建っている観音像は、造成者が建立したものである。」「馬転び坂堀割 この堀割から下部にかけては、古道として残っているがシダが丈高く茂っていたため、古道を探しあてするのに苦勞をした場所である。」

◎大辺路再生実行委員会『熊野古道 大辺路調査報告書』平成 20 年（2008）

「・・・前報告書刊行当時は未整備の状態で「雑木やシダが生い茂り歩行困難であるが」と報告しているが、近年は整備が行き届き歩行に不安は無い。・・・峠から南に下ると雑木林となり、やがて古道は造成地に出て消滅する。切断面から 50 メートル峠寄りに右に下るルートが造られ、そこから造成地に出る。白島トンネル上の丘陵部一帯はバブル期の造成によって広範囲に山が崩され、古道も消滅したが、現在は枯木灘を見下ろす絶景の地となり、高さ約 2 メートルの観音像が安置されている。造成地の東南部突端に古道の堀割が残る。堀割から西浜に向って谷間を下る古道は路肩に石組も残る美しい道で、途中に排水溝も残る。この一帯も一面にシダが繁り、ルートの確認すら困難であったが平成十五年（二〇〇三）に和深川地区の新谷洋一氏によってルートが確認、整備された。・・・溝を渡って岩の露出する急斜面を下ると沢筋に出会い、やがて白島トンネル上の旧国道に出る。しかし、この道は本来の古道ではない。古道は溝を渡ってから東進する平坦な道である。路肩に石組が残り路面の状態も良好な道幅約 2 メートルの古道はやがて枯木灘を見下ろす頂点の部分で国道 42 号側面の山腹強化工事によって切断されている。・・・連続する古道は切断部の東斜面に残っている。切断部分は約 20 メートルに及び、この部分が本来の「馬転坂」と呼ばれる急傾斜の部分である。古道の路肩には石組が施され、馬越トンネル東口下の斜面で古道は崩落している。そこから西浜に向かっても旧国道の造成によって消滅している。・・・」

第 3 章 調査の方法

工事施工期間に調査を実施することになったので、安全上、限られた期間での調査となった。調査開始前の現況は、背丈ほどのシダ類が生い茂り、路肩が見えない状態であった。そこで周辺のシダ類を刈り取り、全容を概観できるようにした。一部の樹木伐採については工事業者によるものである。その後、路面と路肩石積を清掃し、写真撮影を実施した。排水溝などの一部を除いて掘削作業は実施していない。光波とレベルによる測量計測を実施して調査を終了した。なお、標高については、当該地南東側の国道 42 号と JR 紀勢本線の町道脇にある一等水準点より測量したものである。

また、現場作業は期間が限られていたため、現地で写真撮影後、メタシェイプ（Agisoft 社ソフト）を用いて撮影した画像からオルソ画像を作成し、イラストレーター（Adobe 社）による平面図及び立面図のデジタルトレースをおこなった。

記録保存のための発掘調査ではないにもかかわらず、調査報告書の刊行について了承をえたことから、本書の編集に取り掛かった。

第4章 調査の成果

屋根頂部に幅約2.0～2.5m、高さ約3.0m、延長約20mの掘割が確認できる。岩盤をほぼ垂直に掘り割って造られている。現状ではこの区間で石畳や石階段などは認められない。風化のため、岩盤に鑿跡などの工具痕跡は確認できない。

路面は、掘割を南側に抜けるとほぼ90度東方向に折れ曲がり、ゆるやかに下っていく。道幅は2m程度で、谷側の路肩には石積が構築されている。路面は平坦に整形されており、大半が土道であるが、一部石畳状の石が敷かれている箇所がある。ただ、それほど大きくない石を乱雑に敷いている状況であることから、当初から敷かれたものではなく、補修の際に部分的に敷かれたものであろう。延長約30mで南西方向に折れ曲がり、屈曲部には路肩石積の延長が石段として続いている。そして延長約10mで再び南東方向に大きく折れ曲がっている。この区間でも谷側に路肩石積が確認でき、屈曲部には石段が確認できる。この屈曲部より南側は谷部をまっすぐ下る形となり、路肩石積は確認できなくなる。

路肩石積は総延長約40mで、面をもつように粗く加工された方形の砂岩を使用している。掘割などで見られた岩盤と同石材と考えられ、周辺から調達したものと推測できる。石積は面を揃えるように1～4段積み上げられている。段数の違いは、底部で高さを揃えるのではなく、路面の高さで揃えており、地形に沿って深い箇所には段数を増やして積んでいる状況である。

排水溝を1箇所確認した。路肩石積と同様の石材を用いた石組排水溝で、底面にも石材を置いて構築されている。路面をほぼ直交する形で構築され、長さ約1.4m・内法約0.25m、深さ約0.3mを測る。谷側は路肩石積に連続していることから、路肩石積と同時に構築されたものと推察される。

第5章 総括

調査の結果、掘割や路肩石積、石組排水溝など江戸時代に整備された大辺路が確認でき、本格的な調査がほとんど実施されていなかった大辺路の実態を示す成果を得ることができた。これらの整備には相当な労働力を要したと思われる。その契機となったのは、周参見に口熊野代官所を設置し、周参見や和深川に伝馬所を設けたことに伴う紀伊藩による街道整備であったと推察できる。あるいは藩主の紀州領分巡見を機に整備した可能性もある。ただし、整備されたとはいえ、明治時代に至るまで馬転坂の名のとおり難所であることには変わりなかった。

次に個別遺構（掘割・路肩石積・石組排水溝）について総括する。

【掘割】

岩盤を掘削した幅約2.0～2.5m、高さ約3.0m、延長約20mの掘割が確認できたが、これほどの大規模の掘割は、熊野参詣道で現状ではほとんど確認できない。その中で、同じすさみ町内に所在する大辺路長井坂の西側入口部分から約550m西にある「丸山の掘割」が同規模のものとして確認でき、両者に共通して大がかりな土木作業を必要としたと推察される点において、大辺路の整備を考察するうえで重要な検討材料といえる。なお、丸山の掘割に隣接して嘉永五年十月銘の「徳本上人名号碑」が残されており、丸山の掘割の造成は嘉永5年（1852）以前であったことを示唆している。

【路肩石積】

調査区間では延長約 40m にわたり路肩に石積みが確認できた。馬転坂の特徴として、一部の返り法面に石積がみられる。このような嵩上げ工法は類例が乏しいが、大門坂や三重県側の古道に類例が認められる。

大辺路では、長井坂や新田平見道、富山平見道など石畳が確認されている箇所は多くあるが、石畳がなく路肩に石積みだけが施された例は少ない。大辺路では、馬転坂の他、中平見道（串本町）で確認できる。熊野参詣道ではないが、古座街道の宇津木越（白浜町）・田鶴横手道（古座川町）でも確認できる。古座街道は大辺路が海沿いを通るのに対して、田辺・古座間の山間部を最短距離で結び、江戸時代から明治時代中頃にかけて行商人や西国巡礼の往来に利用された街道である。大辺路も江戸時代以降に整備が進んだとされ、路肩石積は、江戸時代以降の街道整備の一端を示す証拠物となりうる。

【石組排水溝】

今回の調査区間では石組の排水溝を 1 箇所確認した。馬転坂では、この他、西側（大串峠）で 3 箇所、東側（馬転坂）では 1 箇所確認している。いずれも同規模で、路肩石積と同様の石材を使用していることから、同時期に構築されたものと推察される。

【課題】

今回の馬転坂の保存協議については、すさみ町教育委員会との連携がうまく図れておらず、工事開始間際にしか協議が進められなかった。各種法令手続きが済んでおり、史跡や埋蔵文化財包蔵地でもないため、法令での規制はできない状況で、結果的に掘割や石積などが工事施工範囲となった。町や地元語り部団体とともに歩行ルート（迂回路設置）は確保できたものの、現地調査は短期間で終わらざるを得なかった。しかし、まだ馬転坂には西側、東側に良好な土道が残存しており、今後、史跡指定や埋蔵文化財包蔵地にするなど保護措置を図る必要がある。このことは、他の参詣道に残されている土道についても同様で、保護措置を進めていかなければならない。

《図版出典》

図 1：和歌山県教育委員会『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』を転載、一部加筆。

図 2：国土地理院ウェブサイトより転載、一部加筆。

図 3 以降：文化遺産課作成。

《引用・参考文献》

宇江敏勝 2004『世界遺産一熊野古道』（新宿書房）

大辺路再生実行委員会 2008『熊野古道 大辺路調査報告書 田辺市から新宮市まで』（紀南文化財研究会監修・編集）

笠原正夫 2015「大辺路の整備と二、三の問題」『近世熊野の民衆と地域社会』（清文堂出版）

木下 優 1994「大辺路街道（熊野古道）－周参見地内東部－」『すさみ風土記（Ⅱ）周参見地誌紀行』（（有）自治会印刷所）

桑原康宏 1999『熊野の集落と地名 紀南地域の人文環境』（清文堂出版）

芝村 勉 1990『熊野古道・大辺地』（機関紙宣伝センター出版）

杉中浩一郎 1998『熊野の民俗と歴史』（清文堂出版）

杉中浩一郎 2012『南紀熊野の諸相－古道・民俗・文化－』（清文堂出版）

周参見尋常高等小学校 1910『周参見村郷土誌』（井戸正士編）（2001『改訂復刻 周参見村郷土誌』）

すさみ町 1978『すさみ町誌』上巻・下巻（すさみ町誌編纂委員会編）

世界遺産大辺路地域協議会 2009『熊野古道大辺路語り部読本』（世界遺産大辺路冊子編集委員会編）

森本正男 1970『牟婁風土記』（森田軽印刷所）

和歌山県西牟婁振興局 2001『熊野古道 大辺路調査報告書 田辺市から串本町まで』（紀南文化財研究会編集）

（社）和歌山県文化財研究会 1986「熊野古道の現状と変遷（4）－大辺路－」『きのくに文化財』第 19 号

（公財）和歌山県文化財センター 2013『立野遺跡－近畿自動車道紀勢線事業に伴う発掘調査報告書－』

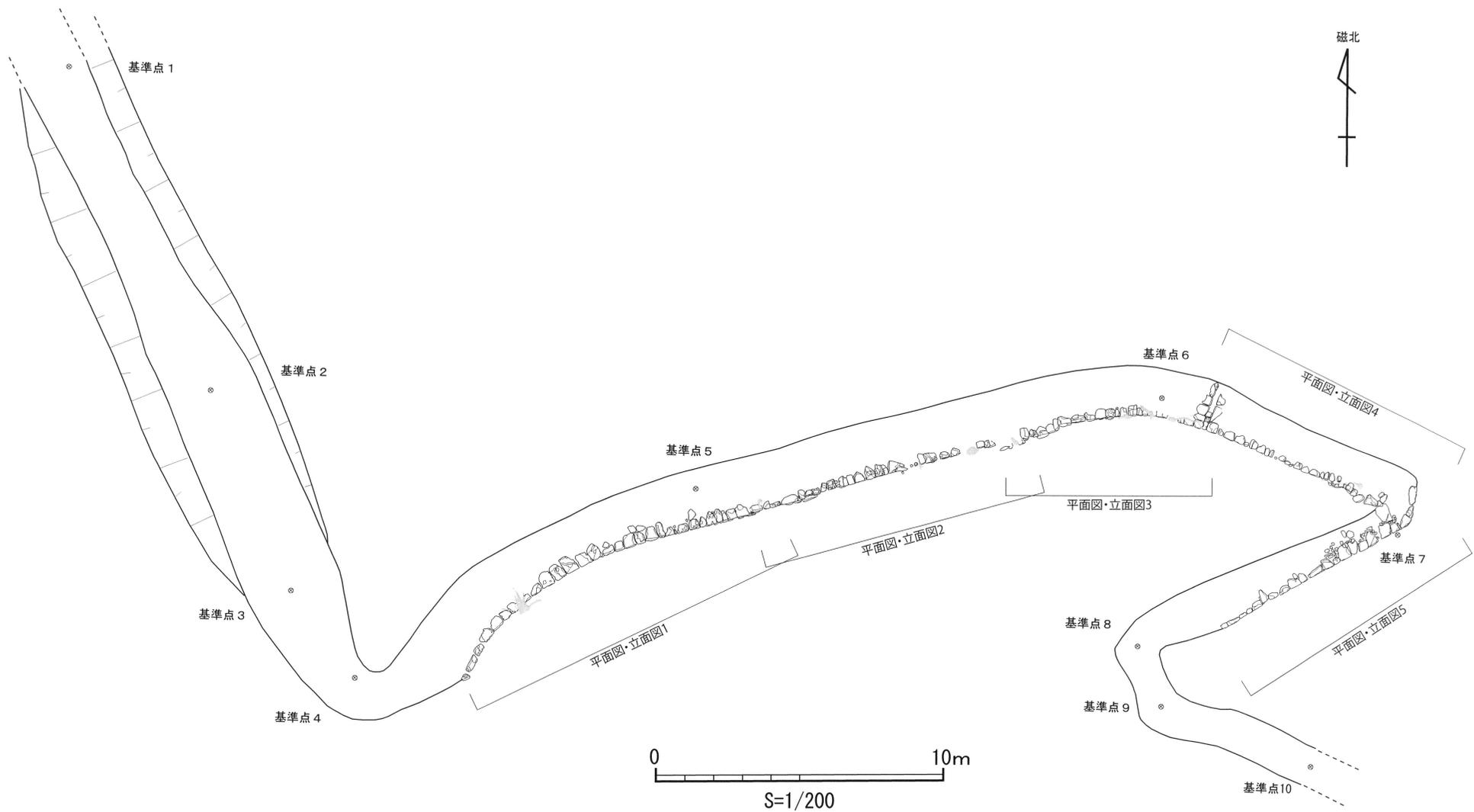


図1 馬転坂 全体平面図

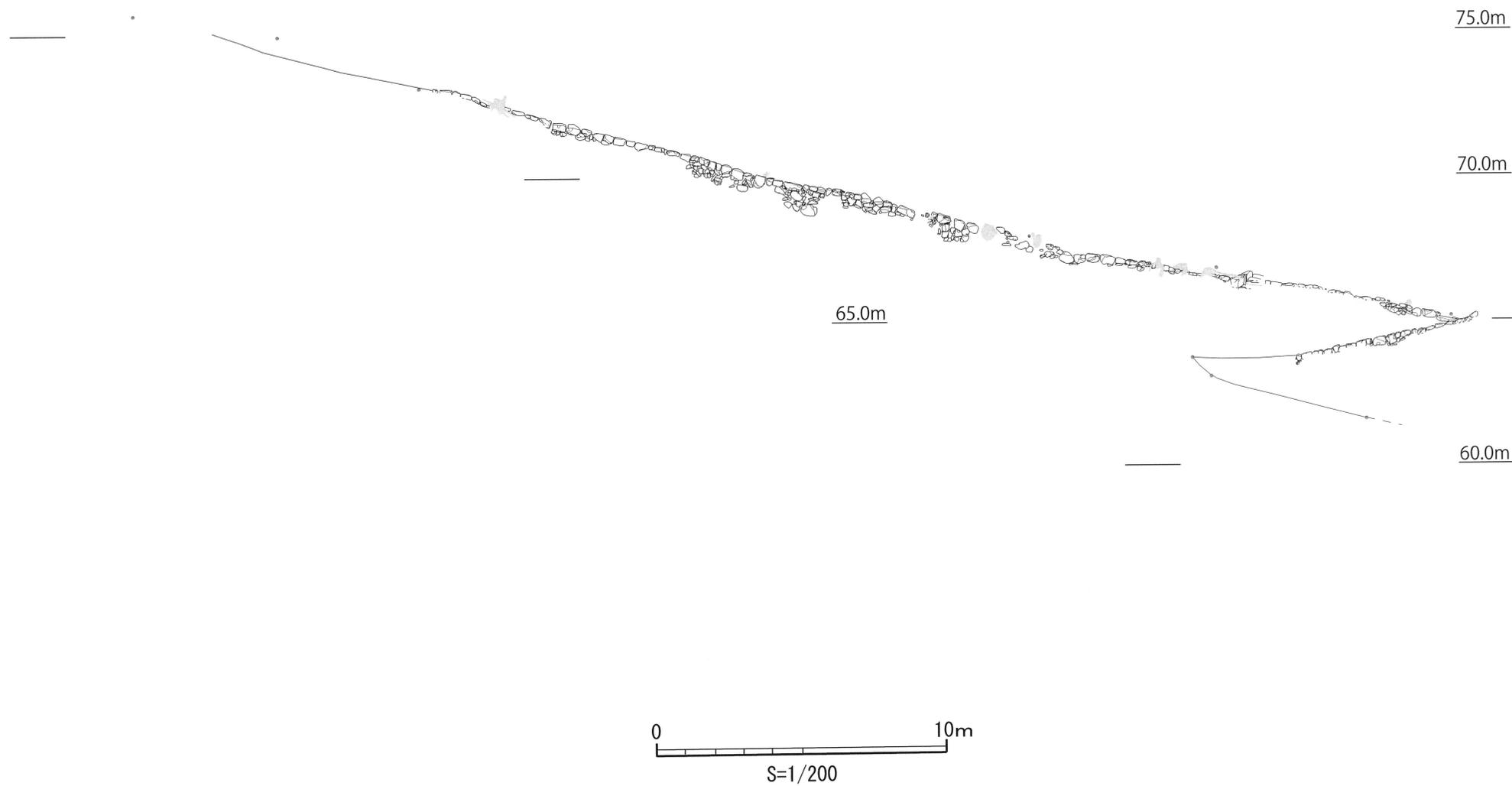


图2 馬転坂 全体立面图

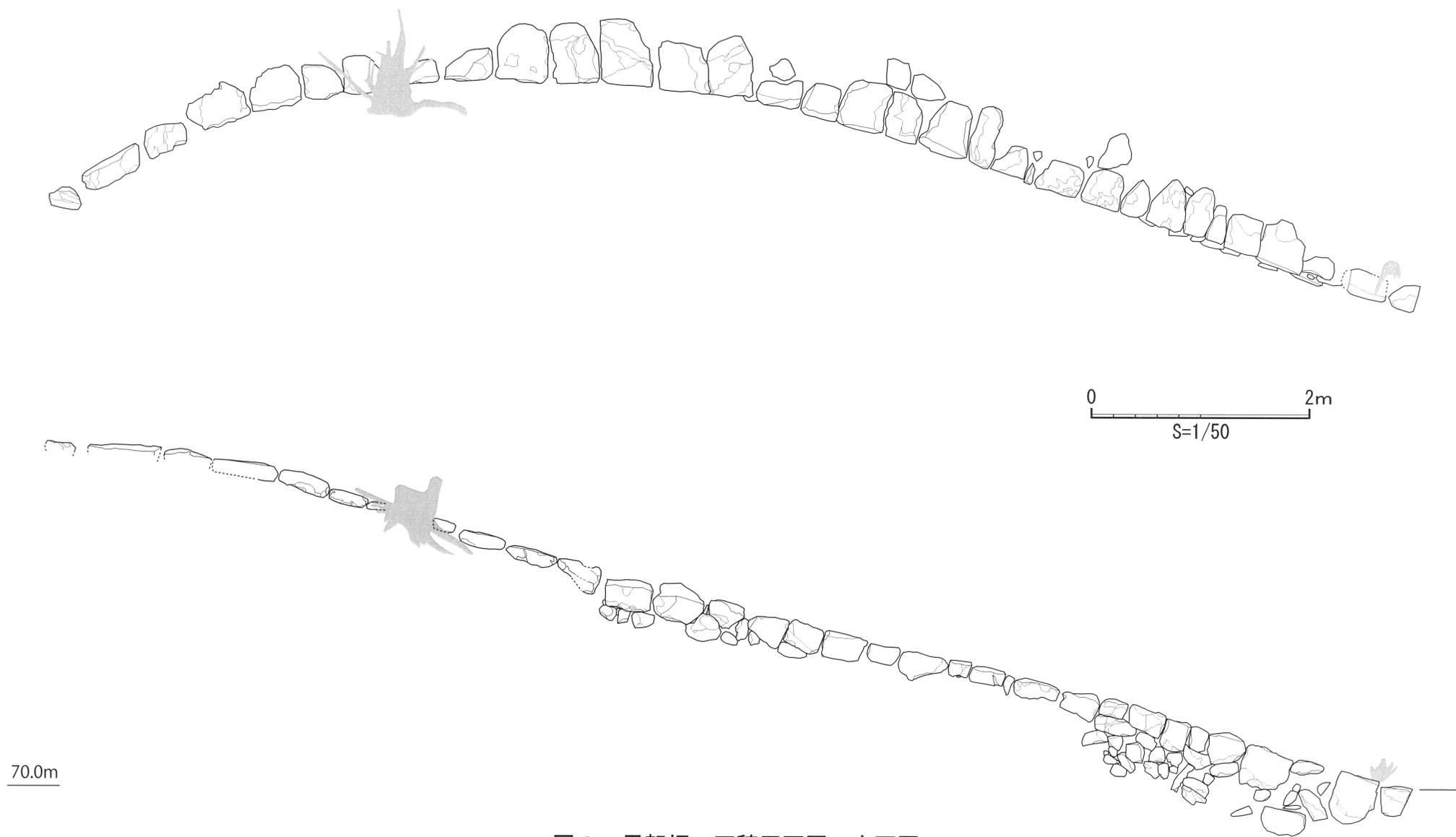


图3 馬転坂 石積平面図・立面図1

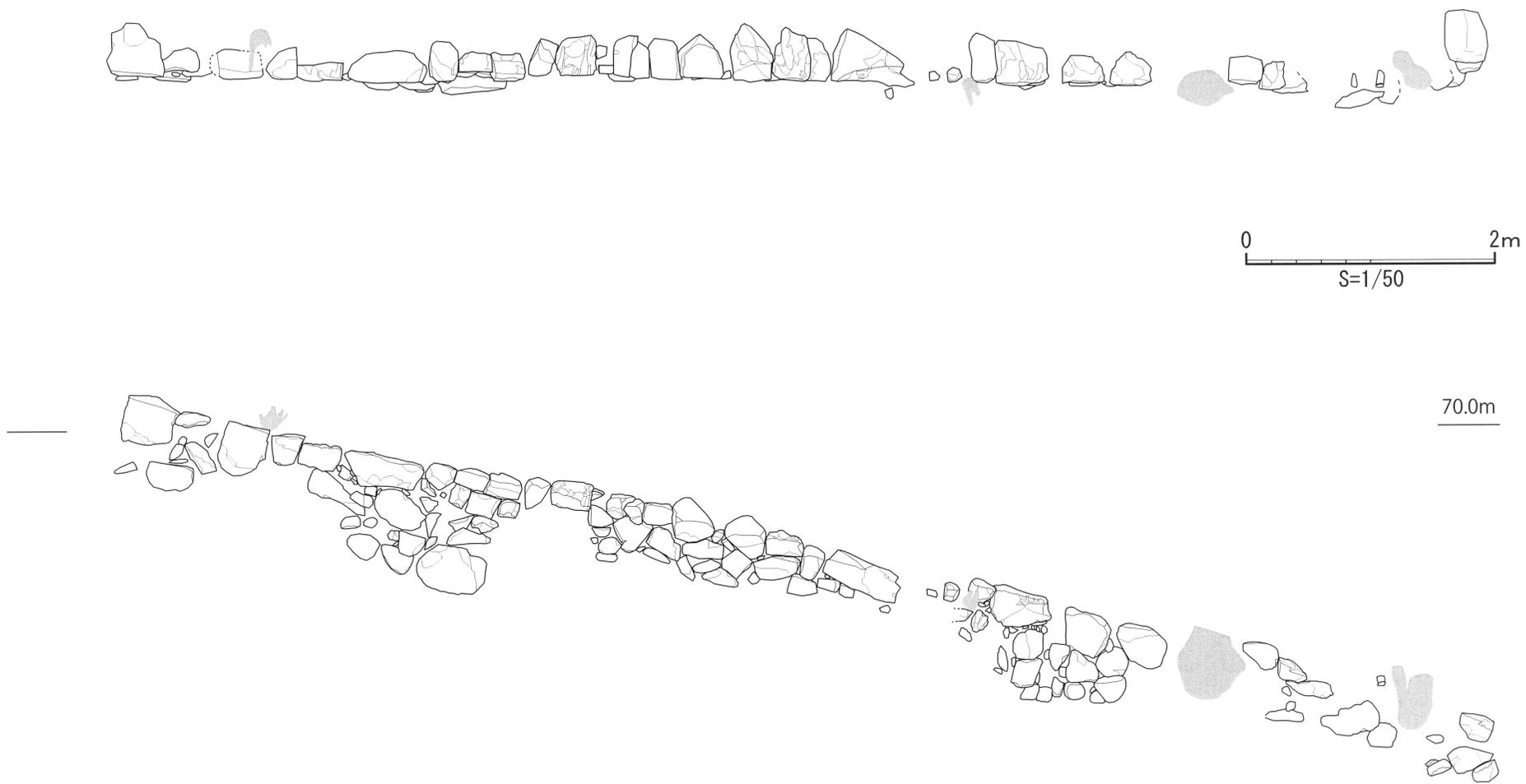


图4 馬転坂 石積平面図・立面图2



图5 馬転坂 石積平面図・立面図3



图6 馬転坂 石積平面図・立面図4

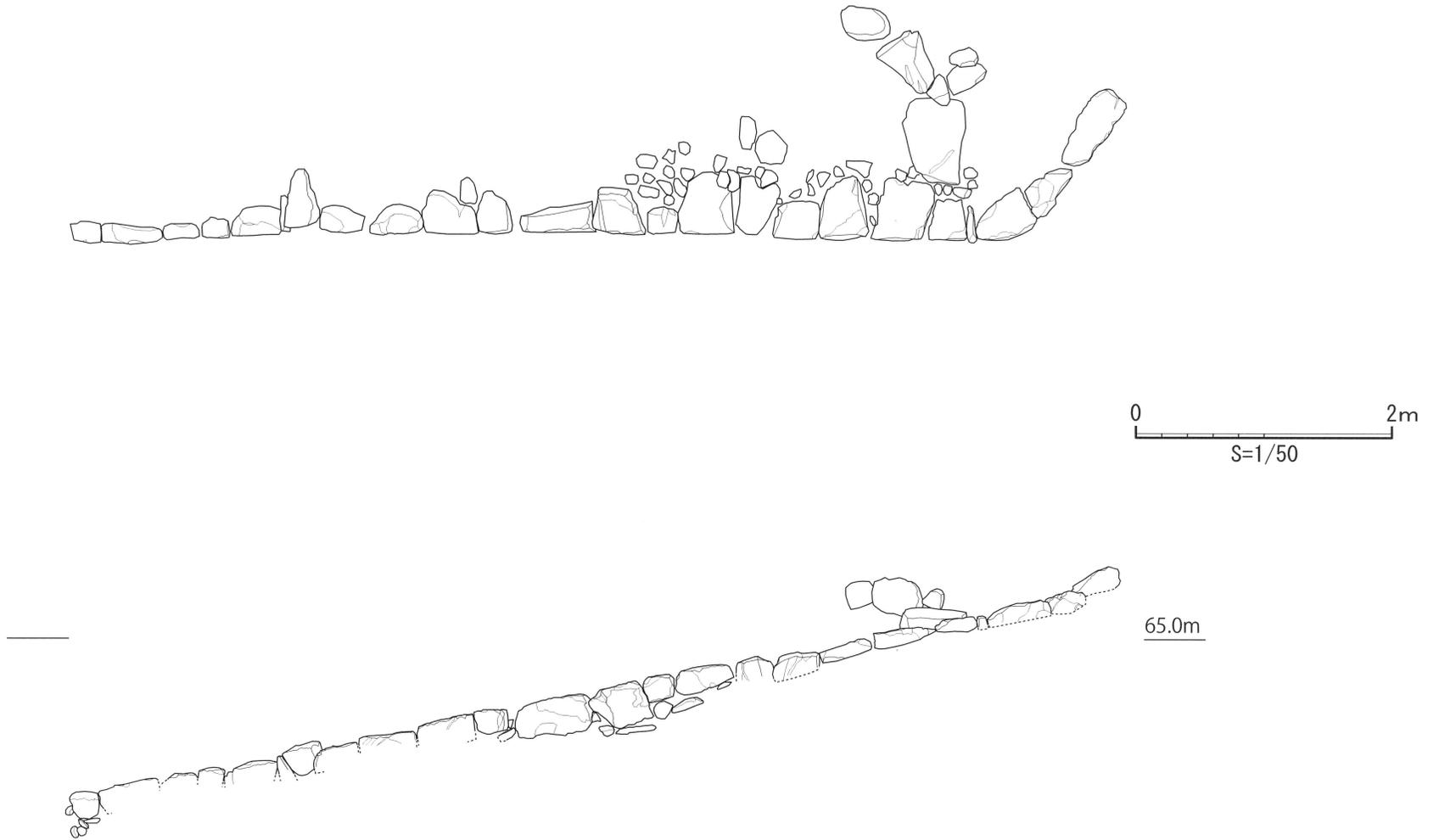


图7 馬転坂 石積平面図・立面図5

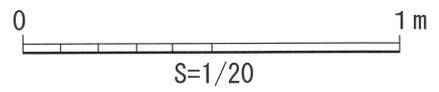
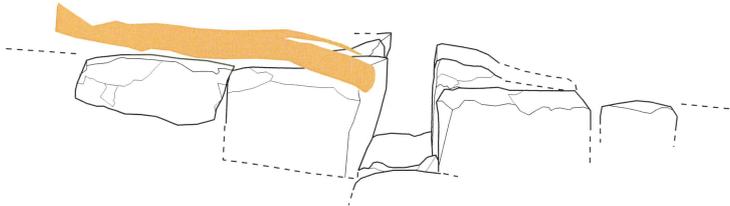
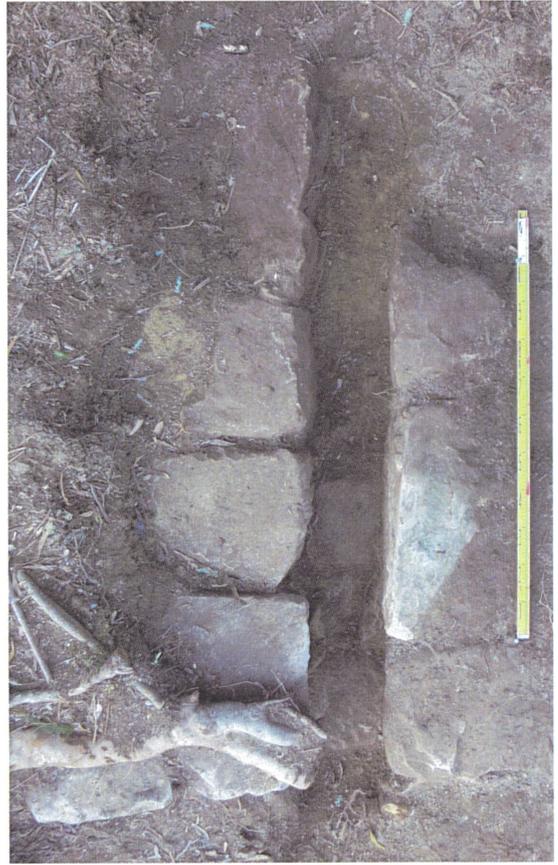
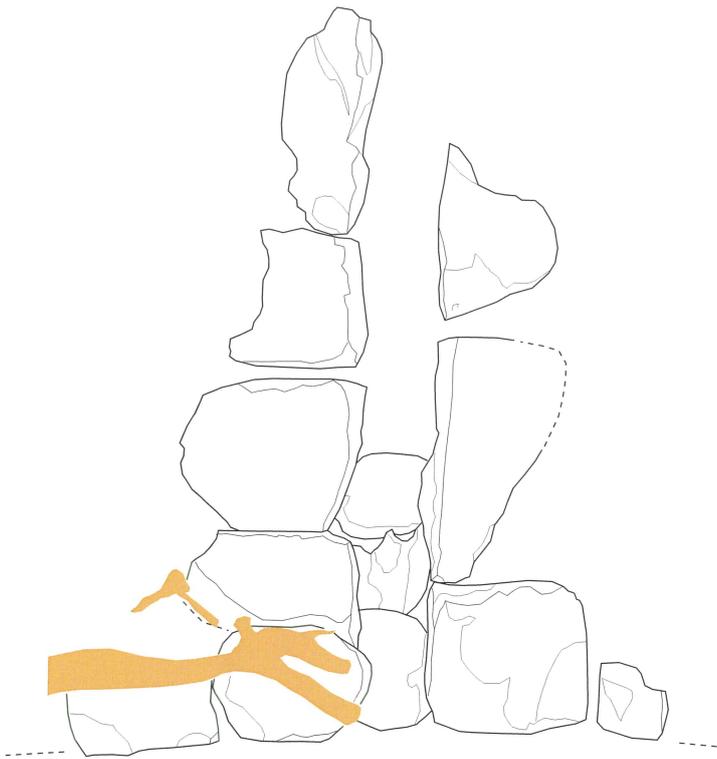


图8 排水溝 平面図・断面図

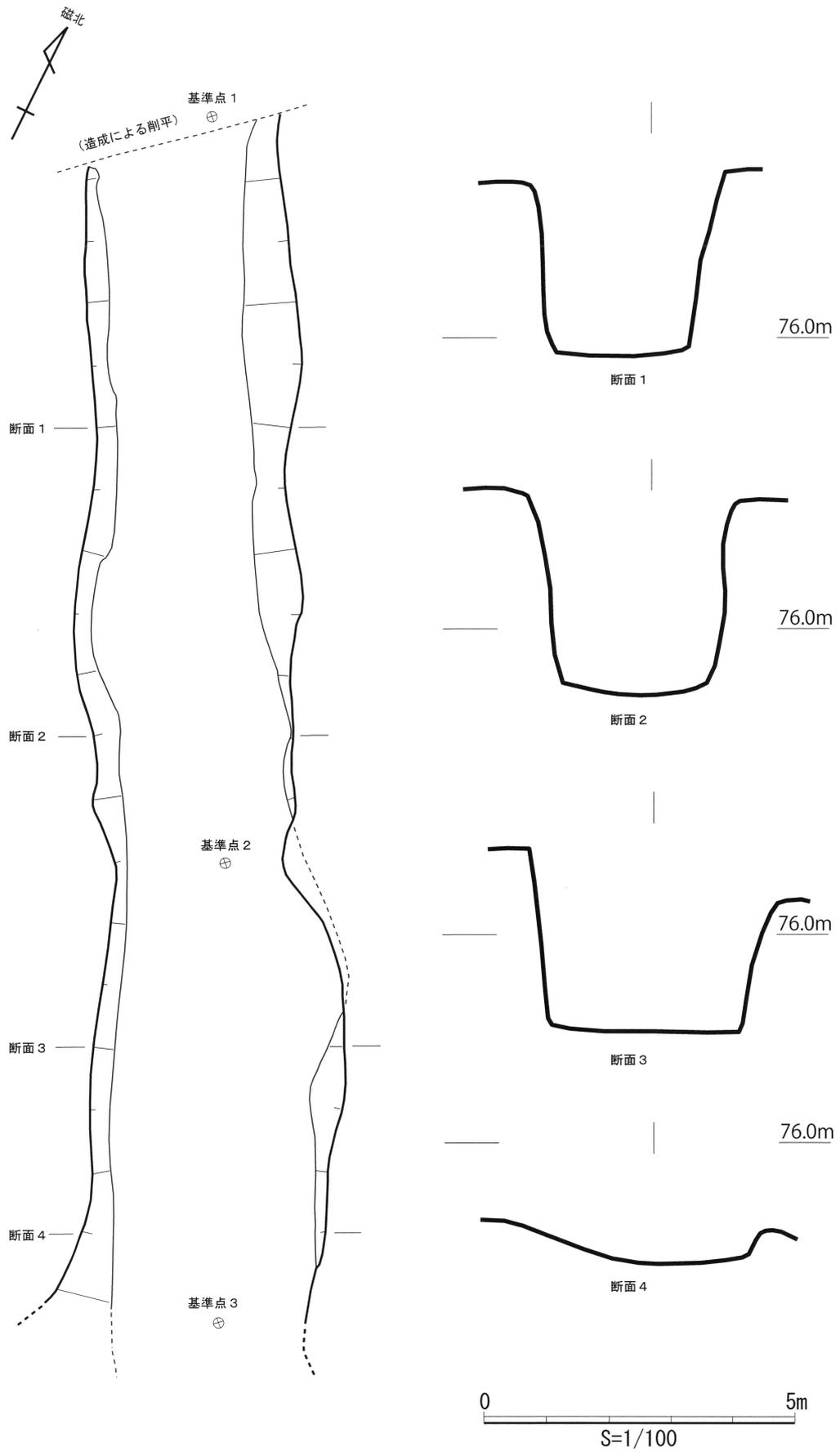


図9 堀割 平面図・断面図

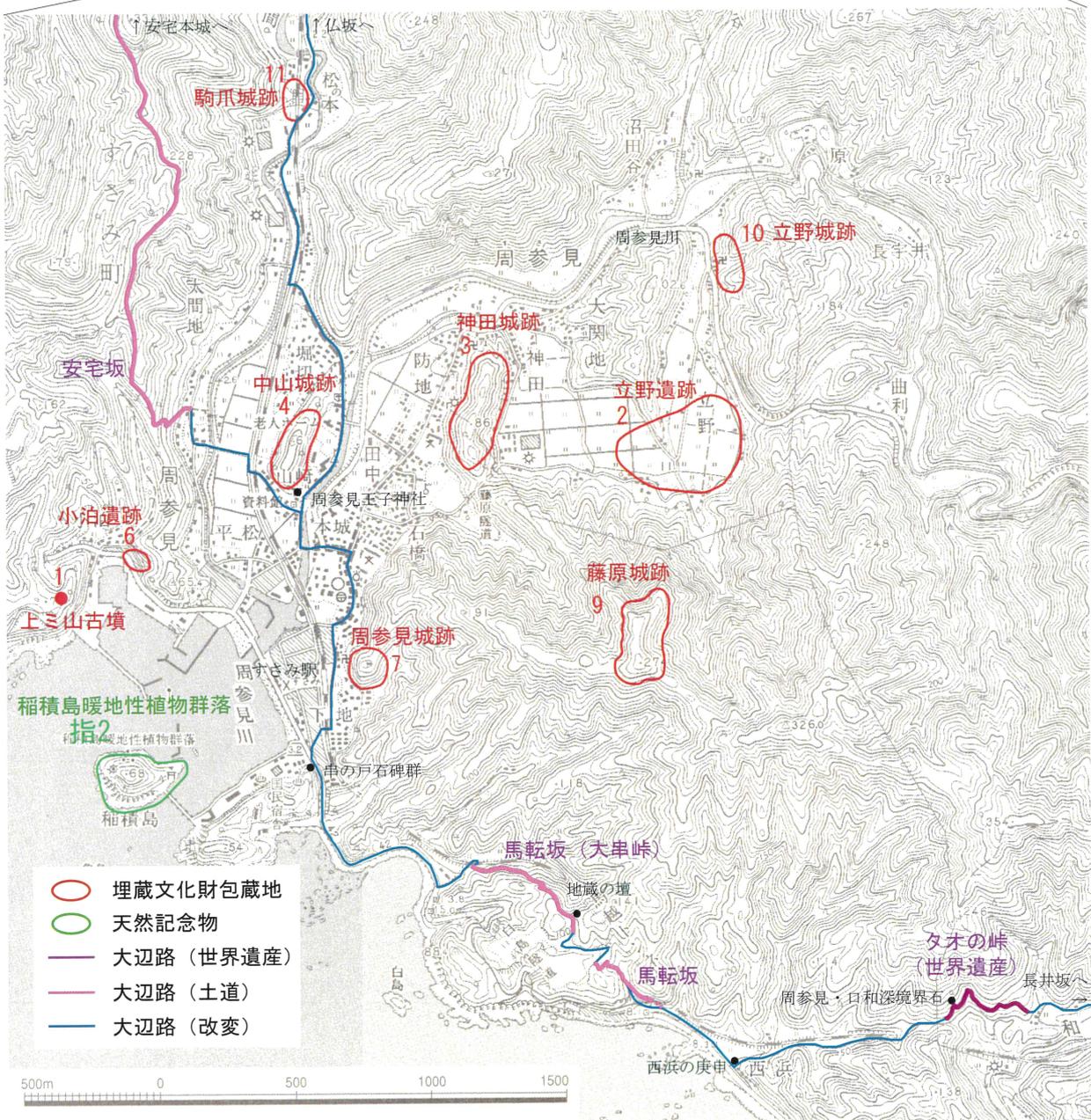
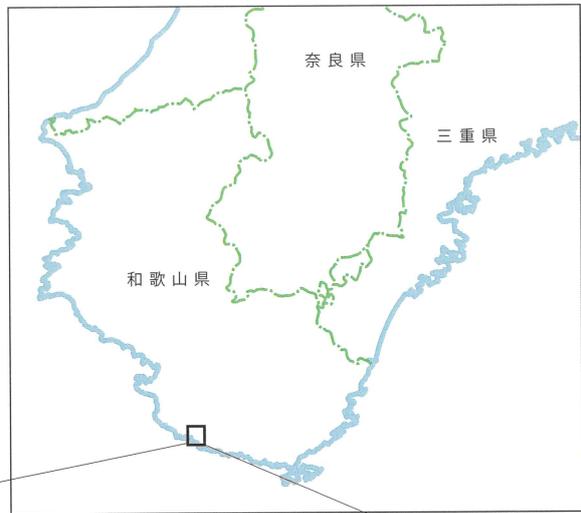


図10 馬転坂周辺の遺跡と熊野参詣道大辺路

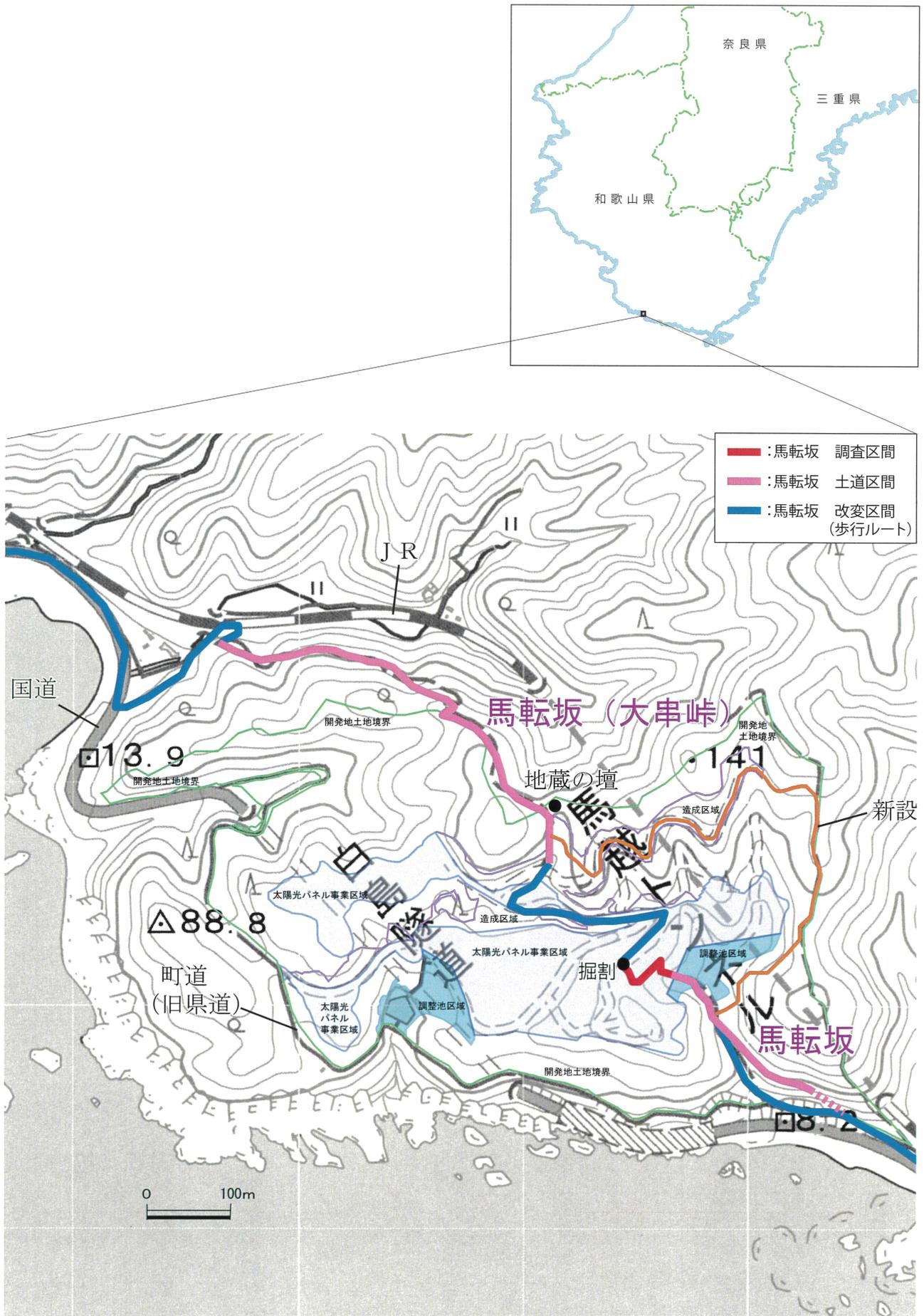
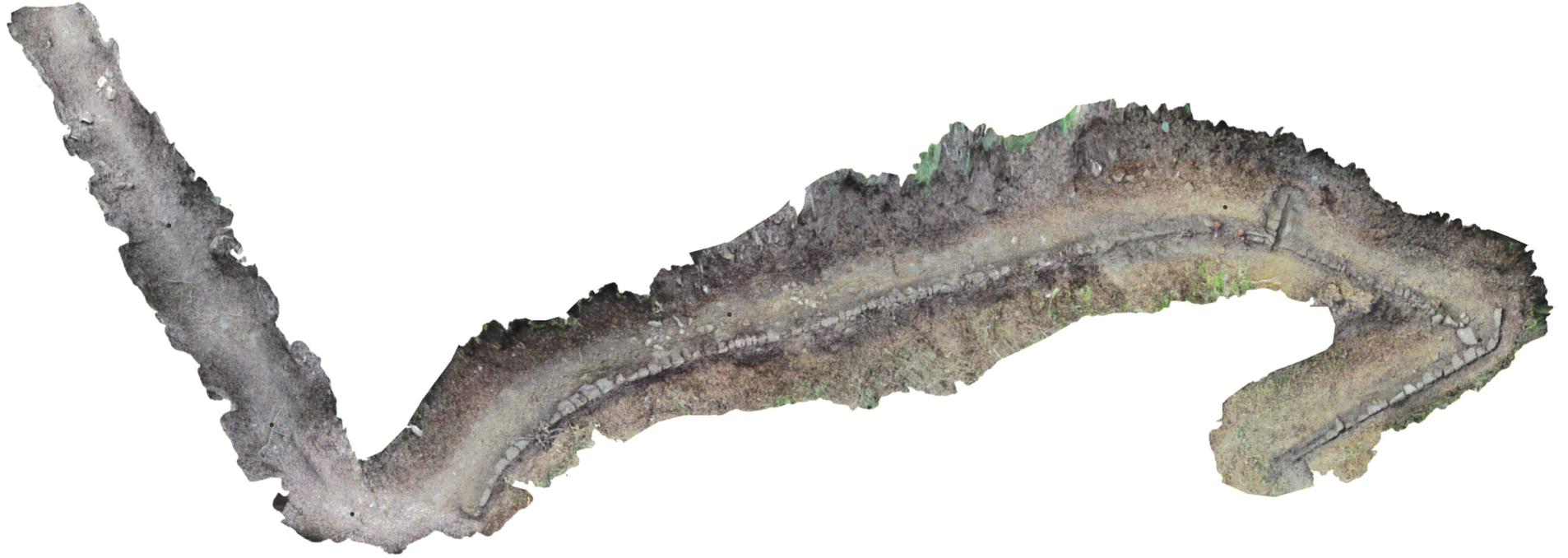


図11 馬転坂と事業区域

磁北



0 10m
S=1/200

図版 1 馬転坂 全体平面画像



図版2 馬転坂 全体立面画像

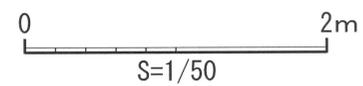


0 2m
S=1/50

70.0m

図版3 馬転坂 石積平面・立面画像1





図版4 馬転坂 石積平面・立面画像2



0 2m
S=1/50

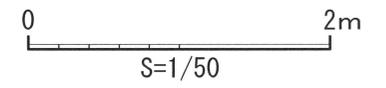


67.0m

図版5 馬転坂 石積平面・立面画像3



図版6 馬転坂 石積平面・立面画像4



図版7 馬転坂 石積平面・立面画像5

写真図版



『老の芋環（おいのおだまき）』（明治2年頃、堀内 信）

* 和歌山県立文書館蔵（和歌山県歴史資料アーカイブより転載）



001 掘割全景（北から）



002 掘割全景（南から）



003 全景（北西から）



004 全景（北西から）



005 全景（西から）



006 全景（南東から）



007 全景中央（南東から）



008 全景中央（北西から）



009 全景（南東から）



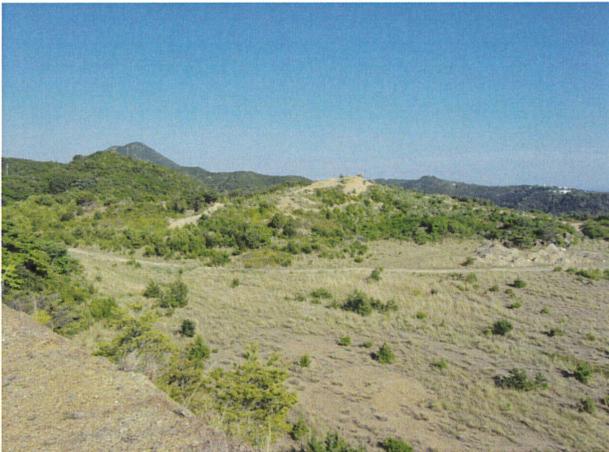
010 全景南半部（南西から）



011 馬転坂遠景 (北から)



012 馬転坂遠景 (北東から)



013 馬転坂遠景 (西から)



014 馬転坂と事業予定地 (北西から)



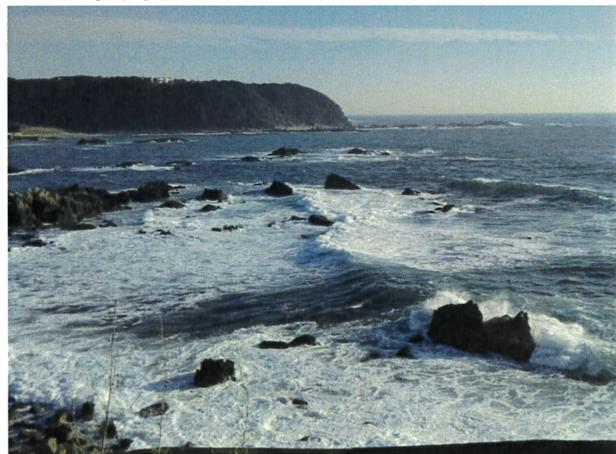
015 事業予定地 (北西から)



016 事業予定地 (北から)



017 掘割から事業予定地をのぞむ (東から)



018 馬転坂から枯木灘をのぞむ (冬) (北西から)



019 町道（旧県道）（西から）



020 馬転坂東側（事業地外）歩行入口（南から）



021 馬転坂東側（事業地外）（西から）



022 馬転坂東側（事業地外）（北西から）



023 馬転坂東側（事業地外）（北西から）



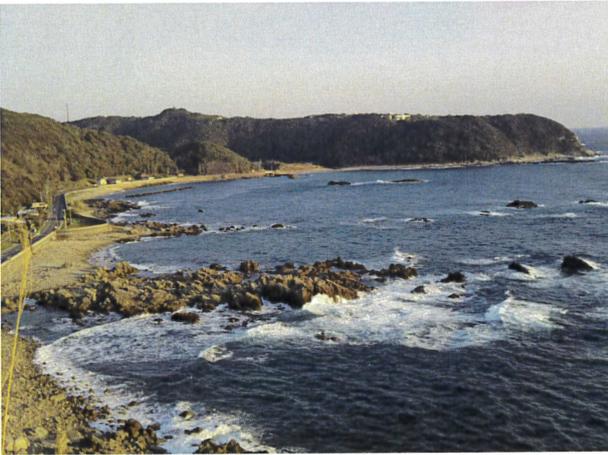
024 馬転坂東側（事業地外）（北西から）



025 馬転坂東側（事業地外）（南東から）



026 馬転坂東側（事業地外）（北西から）



027 馬転坂東側から枯木灘をのぞむ（北西から）



028 馬転坂東側（事業地外）石畳道（南から）



029 馬転坂東側（事業地外）（北から）



030 馬転坂東側（事業地外）（南から）



031 馬転坂東側（事業地外）（南から）



032 馬転坂東側（事業地外）（北から）



033 馬転坂東側（事業地外）（南から）



034 馬転坂東側（事業地外）（北から）



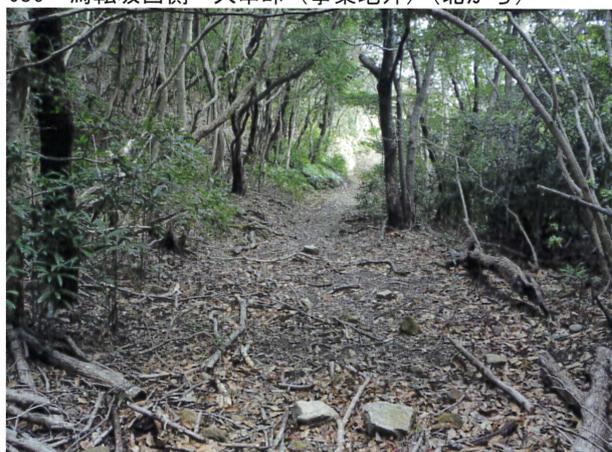
035 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北から)



036 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北から)



037 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (南から)



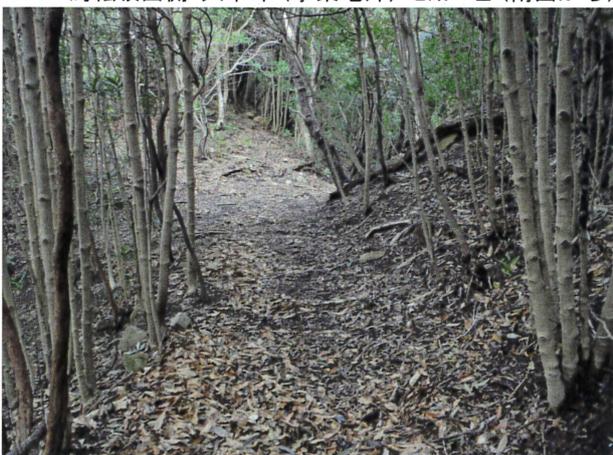
038 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北から)



039 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) 地蔵の壇 (南西から)



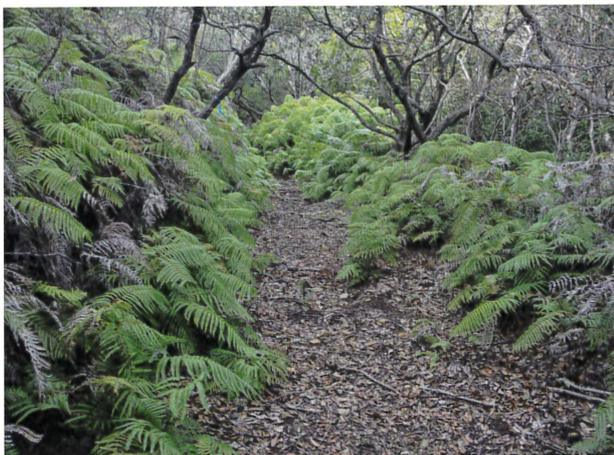
040 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (南東から)



041 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北西から)



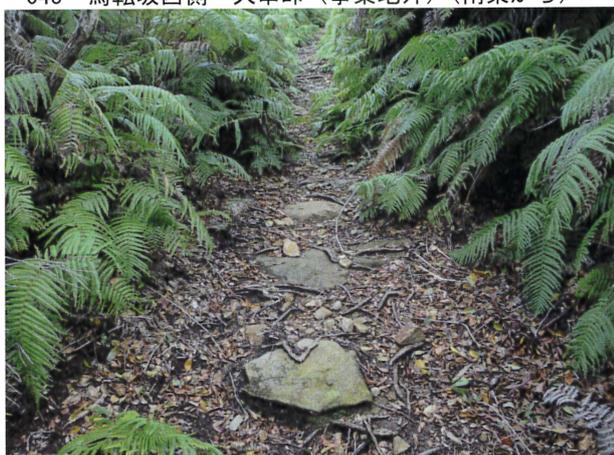
042 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (南東から)



043 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (南東から)



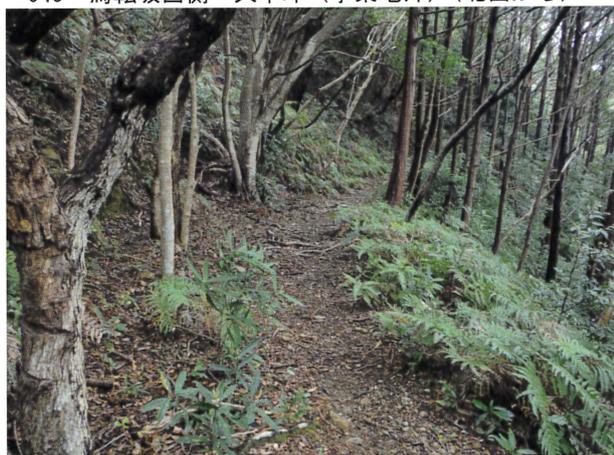
044 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北西から)



045 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北西から)



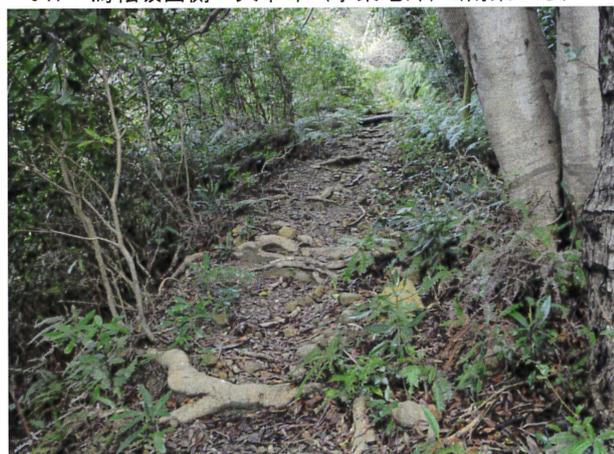
046 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北西から)



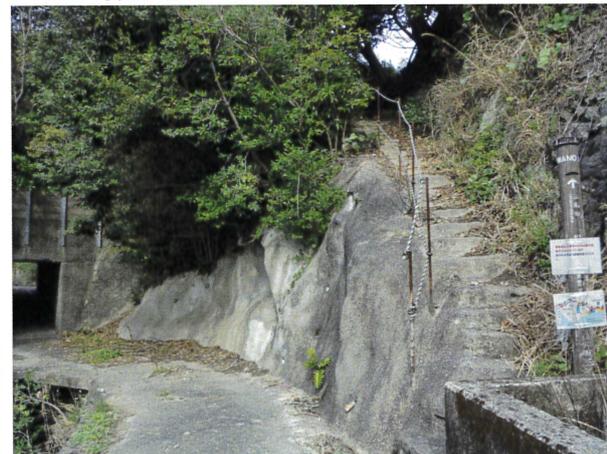
047 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (南東から)



048 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北西から)



049 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) (北西から)



050 馬転坂西側 大串峠 (事業地外) 歩行入口 (南から)



051 作業風景 清掃（北西から）



052 作業風景 清掃（北西から）



053 作業風景 清掃（南東から）



054 作業風景 排水溝調査（南西から）



055 作業風景 レベル測量（北西から）



056 作業風景 写真撮影（南から）



057 作業風景 写真撮影（北西から）



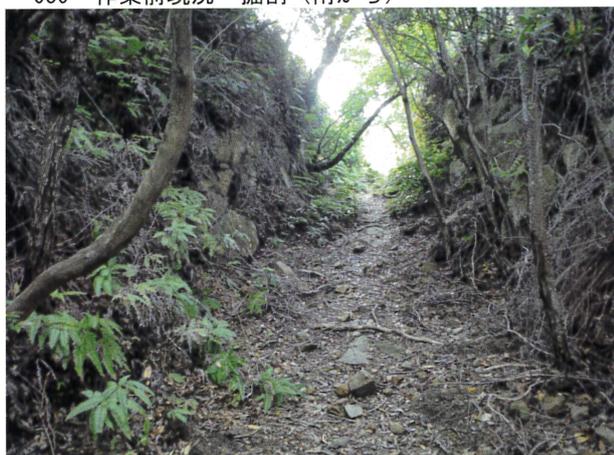
058 作業風景 写真撮影（南から）



059 作業前現況 掘割 (南から)



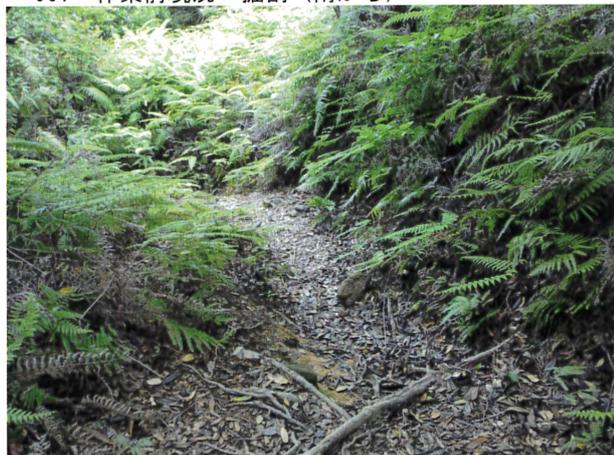
060 作業前現況 掘割 (北から)



061 作業前現況 掘割 (南から)



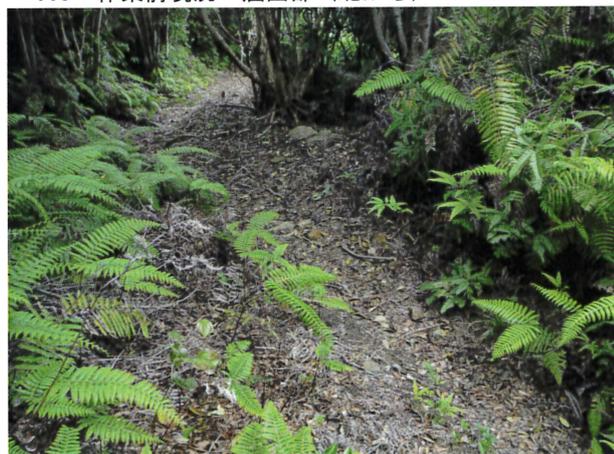
062 作業前現況 (南から)



063 作業前現況 屈曲部 (北から)



064 作業前現況 屈曲部 (南東から)



065 作業前現況 (北西から)



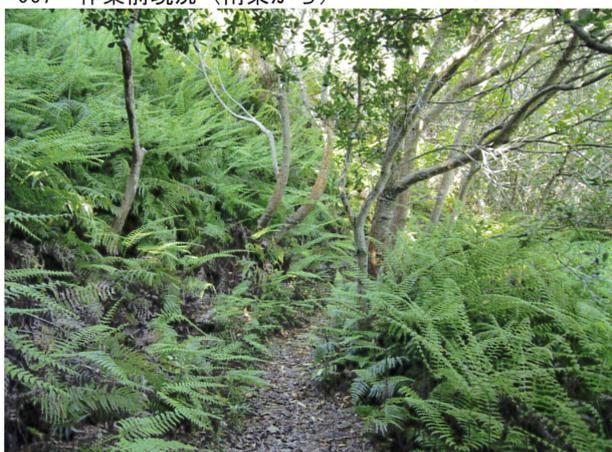
066 作業前現況 (北西から)



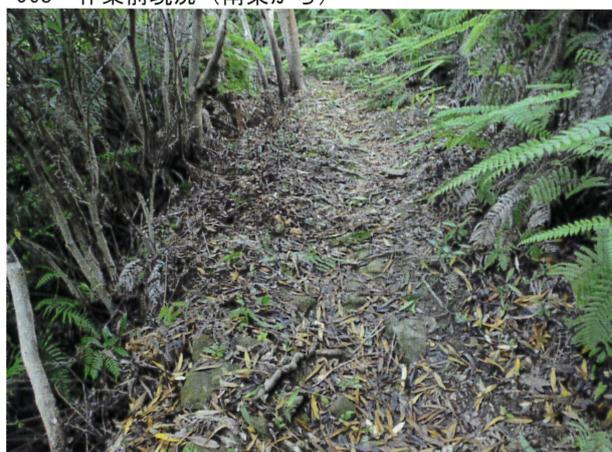
067 作業前現況 (南東から)



068 作業前現況 (南東から)



069 作業前現況 (北西から)



070 作業前現況 (南東から)



071 作業前現況 (南西から)



072 作業前現況 (北東から)



073 作業前現況 (北東から)



074 作業前現況 (南から)



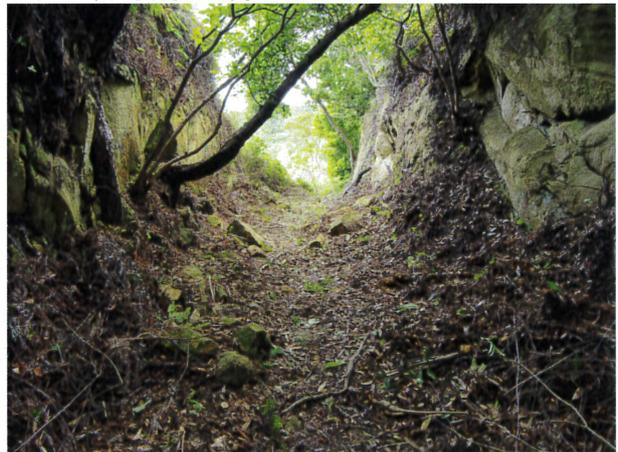
075 草刈後現況（北から）



076 草刈後現況（南から）



077 草刈後現況（南から）



078 草刈後現況（南から）



079 草刈後現況（北から）



080 草刈後現況（南から）



081 草刈後現況（北から）



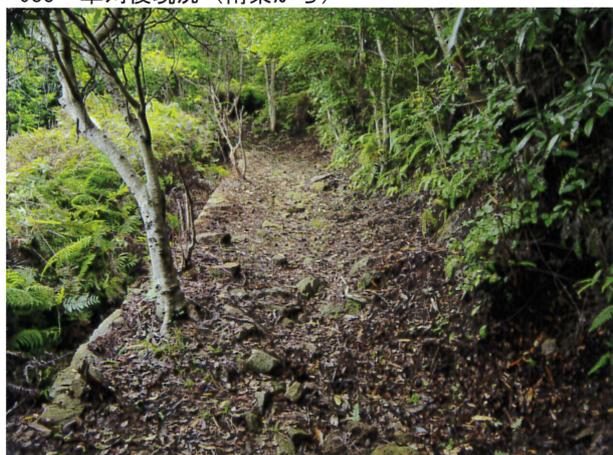
082 草刈後現況（北西から）



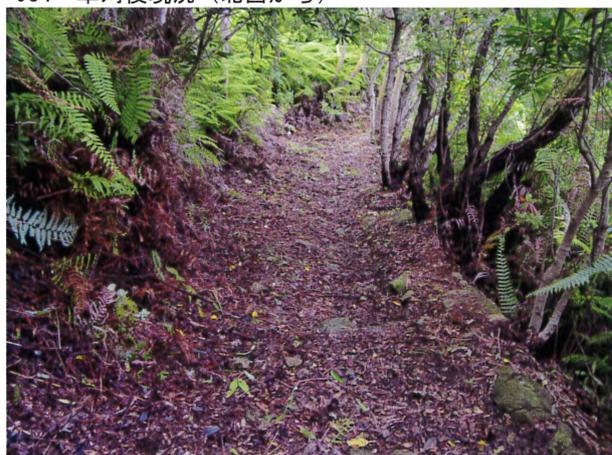
083 草刈後現況（南東から）



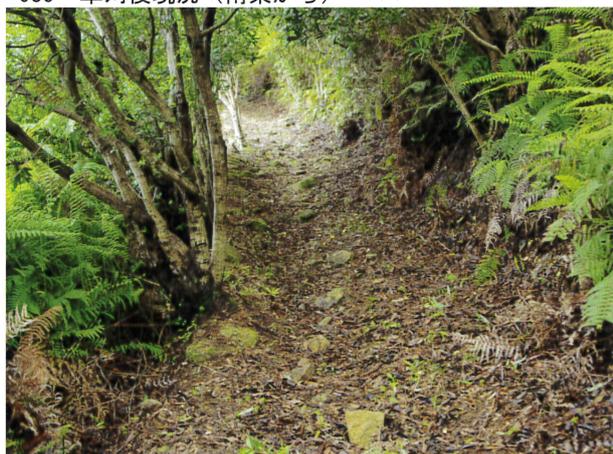
084 草刈後現況（北西から）



085 草刈後現況（南東から）



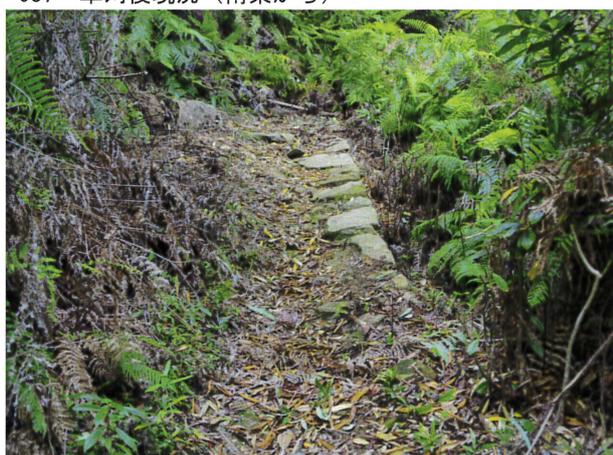
086 草刈後現況（北西から）



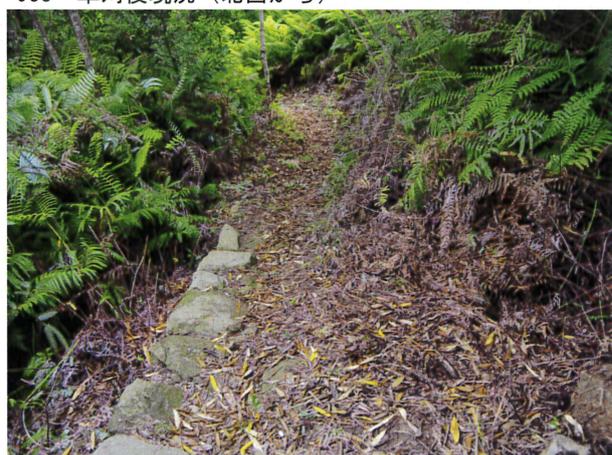
087 草刈後現況（南東から）



088 草刈後現況（北西から）



089 草刈後現況（南西から）



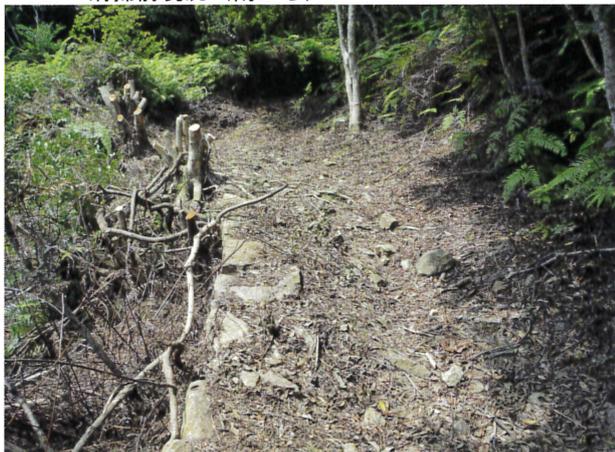
090 草刈後現況（北東から）



091 清掃前現況 (南から)



092 清掃前現況 (北西から)



093 清掃前現況 (南東から)



094 清掃前現況 (北西から)



095 清掃前現況 (南東から)



096 清掃前現況 (北西から)



097 清掃前現況 (南東から)



098 清掃前現況 (北東から)



099 掘割 清掃前 全景（北から）



100 掘割 全景（北から）



101 掘割 全景（南から）



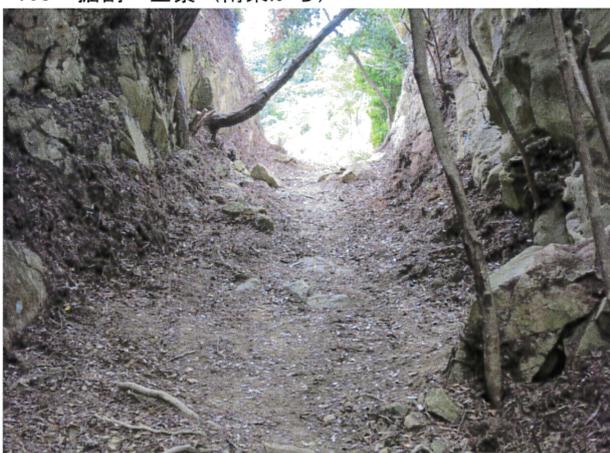
102 掘割 全景（南西から）



103 掘割 全景（南東から）



104 掘割 全景（上から）



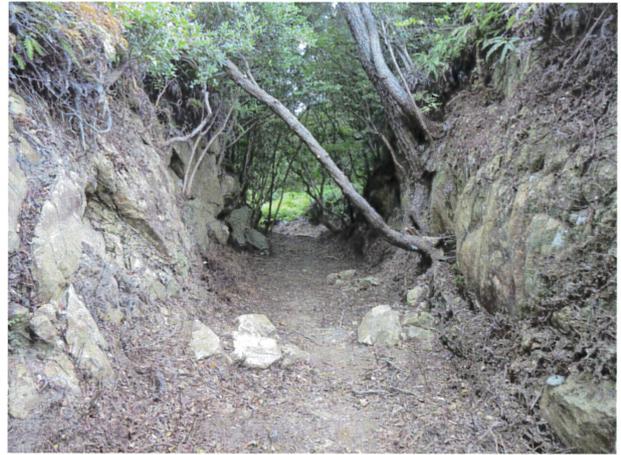
105 掘割 全景（南から）



106 掘割 全景（南西から）



107 掘割 全景 (南東から)



108 掘割 全景 (北から)



109 掘割 全景 (南から)



110 掘割 全景 (南から)



111 掘割 全景 (北から)



112 掘割 全景 (南から)



113 掘割 全景 (北から)



114 掘割 全景 (南東から)



115 古道（路肩石積） 全景（北から）



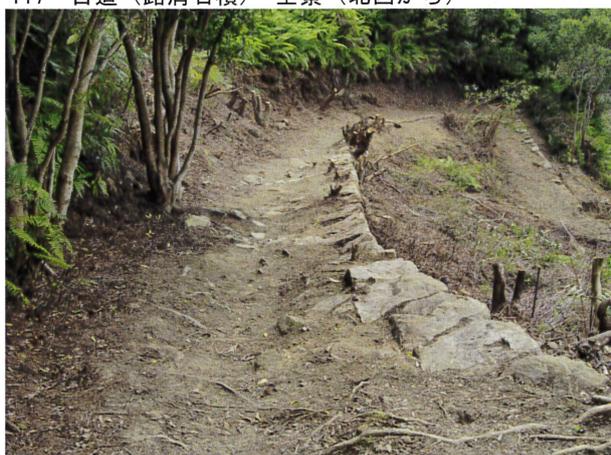
116 古道（路肩石積） 全景（南東から）



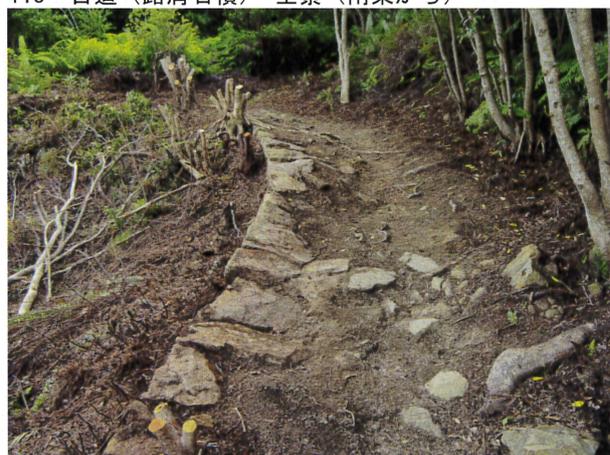
117 古道（路肩石積） 全景（北西から）



118 古道（路肩石積） 全景（南東から）



119 古道（路肩石積） 全景（北西から）



120 古道（路肩石積） 全景（南東から）



121 古道（路肩石積） 全景（北西から）



122 古道（路肩石積） 全景（南東から）



123 古道（路肩石積） 全景（北西から）



124 古道（路肩石積） 全景（南東から）



125 古道（路肩石積） 全景（北西から）



126 古道（路肩石積） 全景（南東から）



127 古道（路肩石積） 全景（北西から）



128 古道（路肩石積） 全景（南東から）



129 古道（路肩石積） 全景（南東から）



130 古道（路肩石積） 全景（南東から）



131 古道（路肩石積） 全景（北西から）



132 古道（路肩石積） 全景（上から）



133 古道（路肩石積） 全景（北東から）



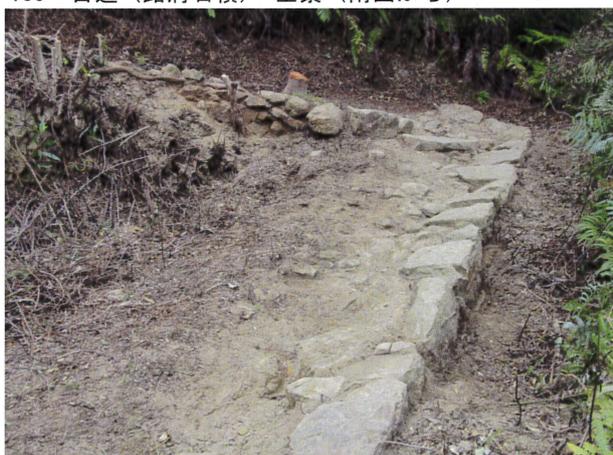
134 古道（路肩石積） 全景（南西から）



135 古道（路肩石積） 全景（南西から）



136 古道（路肩石積） 全景（北東から）



137 古道（路肩石積） 全景（南西から）



138 古道（路肩石積） 全景（南西から）



139 路肩石積 立面（南から）



140 路肩石積 立面（南から）



141 路肩石積 立面（南から）



142 路肩石積 立面（南から）



143 路肩石積 立面（南から）



144 路肩石積 立面（南から）



145 路肩石積 立面（南から）



146 路肩石積 立面（南から）



147 路肩石積 立面 (南東から)



148 路肩石積 立面 (南東から)



149 路肩石積 立面 (南東から)



150 路肩石積 立面 (南東から)



151 路肩石積 立面 (南東から)



152 路肩石積 立面 (南東から)



153 路肩石積 立面 (西から)



154 路肩石積 立面 (西から)



155 路肩石積 立面（南から）



156 路肩石積 立面（南から）



157 路肩石積 立面（南から）



158 路肩石積 立面（南から）



159 路肩石積 立面（南から）



160 路肩石積 立面（南から）



161 路肩石積 立面（南から）



162 路肩石積 立面（南から）



163 路肩石積 立面 (南から)



164 路肩石積 立面 (南から)



165 路肩石積 立面 (南から)



166 路肩石積 立面 (南から)



167 路肩石積 立面 (南から)



168 路肩石積 立面 (南から)



169 路肩石積 立面 (南から)



170 路肩石積 立面 (南から)



171 路肩石積 立面 (南から)



172 路肩石積 立面 (南から)



173 路肩石積 立面 (南から)



174 路肩石積 立面 (南から)



175 路肩石積 立面 (南から)



176 路肩石積 立面 (南から)



177 路肩石積 立面 (南から)



178 路肩石積 立面 (南から)



179 路肩石積 立面 (南から)



180 路肩石積 立面 (南から)



181 路肩石積 立面 (南から)



182 路肩石積 立面 (南から)



183 路肩石積 立面 (南から)



184 路肩石積 立面 (南から)



185 路肩石積 立面 (南から)



186 路肩石積 立面 (南から)



187 石組排水溝 (南東から)



188 石組排水溝 (北西から)



189 石組排水溝 (上から)



190 石組排水溝 (上から)



191 石組排水溝 (西から)



192 石組排水溝 (南から)



193 石組排水溝 (東から)



194 石組排水溝 (北から)



195 石組排水溝 (上から)



196 石組排水溝 (南西から)



197 石組排水溝 (南西から)



198 石組排水溝 (馬転坂東側) (北から)



199 石組排水溝 (馬転坂西側 大串峠) (東から)



200 石組排水溝 (馬転坂西側 大串峠) (西から)



201 石組排水溝 (馬転坂西側 大串峠) (西から)



202 石組排水溝 (馬転坂 大串峠) (西から)

報 告 書 抄 録								
ふりがな	わかやまけんにしむろぐんすさみちょうしょざい くまのさんけいみちおおへち うまころびざかのちょうさ							
書名	和歌山県西牟婁郡すさみ町所在 熊野参詣道大辺路 馬転坂の調査							
編集者名	仲原知之／仲 克幸・寺本就一・中川 貴・佐藤純一							
編集機関	和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課							
所在地	〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地							
発行年月日	令和3年（西暦2021）3月22日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおへち 大辺路 うまころびざか 馬転坂	にしむろぐん 西牟婁郡 すさみ ちょうくちわ 町口和 ぶか 深	304069	—	33° 32' 13"	135° 30' 24"	2020.5.16 ～5.19 / 5.30～6.1	約150㎡	大規模太陽光発電施設建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大辺路 馬転坂	道路遺構	江戸時代 ～現代	路面・掘割・石組路 肩・石組排水溝		遺物なし		良好に残る大辺路の 道路遺構を調査	
要約	大規模太陽光発電施設建設に伴う熊野参詣道大辺路の馬転坂の調査報告書。江戸時代に再整備されたと推測できる道路遺構を調査。掘割や石組路肩、石組排水路を検出。							

和歌山県西牟婁郡すさみ町所在
熊野参詣道大辺路 馬転坂の調査

発行日 令和3年（2021）3月22日
 発行 自然パワー発電合同会社
 編集 和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課
 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地
 印刷 株式会社 協和
 和歌山県海南市南赤坂5-3